

令和 6 年度
旭川市社会教育基本計画
点検・評価報告書（原案）

令和 6 年（2024 年）7 月

旭川市教育委員会 社会教育部

目 次

社会教育基本計画の点検・評価について	1
基本目標 1（市民一人一人の主体的な学びの機会の充実）	3
基本目標 2（市民の学びを支える環境の整備）	12
基本目標 3（地域における学びの循環）	18
基本目標 4（市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実）	25
基本目標 5（郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成）	31
学識経験者の意見	36

社会教育基本計画の点検・評価について

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」とします。）を行い、その結果に関する報告書を作成することとされています。

これを受け社会教育部では、「旭川市社会教育基本計画」に基づき、前年度に実施した事業や取組について点検・評価を行っており、本報告書はその結果をまとめたものです。

学識経験者への意見聴取後、旭川市社会教育委員会議での審議を経て、本報告書と、学校教育部が別途行う「学校教育基本計画」に基づく点検・評価とを併せて、「旭川市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書(案)」としてとりまとめた上で、教育委員会会議で議決の後、市議会へ提出するとともに、公表します。

2 点検・評価の対象

社会教育部が令和5年度に行った事業や取組を対象に、点検・評価を行っています。

3 点検・評価の方法

（１）「基本目標」と「成果目標」について

「旭川市社会教育基本計画（計画期間：平成28年度～令和9年度）」では、計画に掲げる5つの「基本目標」ごとに、社会教育行政により「どのような状況を目指したいのか」ということを「成果目標」として設定しています。さらに、その達成状況を客観的に見取る「活動指標」、事業実施による市民の意識や行動の変化を見取る「成果指標」を設定しています。また、成果指標は、参加者の意識の変容を見取る「参加者・利用者の意識」と市民の現状を把握する「市民の意識や行動」に分けて設定しています。これらの指標の令和5年度の目標値への達成状況を「達成」、「未達成」として示し、「未達成」の指標については、前年度の実績値との比較を示しています。

（２）「基本施策」について

「基本施策」では、具体的な事業や取組についてその実績を記述するとともに、一部の事業や取組については、グラフを用いて推移を示しています。

（３）「課題と改善に向けた今後の方向性」について

主な事業や取組についてその課題を整理するとともに、今後の事業改善へ向けた方向性等を具体的に記述しています。

(参考) 「旭川市社会教育基本計画」の体系

社会教育推進基本方針			
基本理念 ○主体的に学び、その成果を地域づくりに生かす ○地域を知り、学び合いながら、絆を深め、郷土愛を育む		目指す姿 ・主体的に学んでいる ・学びの成果を地域や他の人のために生かしている ・日頃から文化芸術に触れている ・郷土愛が育まれている	

社会教育基本計画			
基本目標	成果目標	基本施策	主な取組
基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実	成果目標 1 市民が、主体的に学び、人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応える学習機会の充実を図る	基本施策 1－1 社会的な課題や多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供	主な取組 1－1－1 現代的・社会的な課題や多様なニーズに対応した学習の推進 主な取組 1－1－2 ライフステージに対応した学習機会の充実 主な取組 1－1－3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実
		基本施策 1－2 子育て家庭への支援体制の充実	主な取組 1－2－1 保護者の育ちを支援する学習機会の充実 主な取組 1－2－2 保護者を孤立させない支援体制の充実
基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備	成果目標 2 社会の変化や新たなニーズに対応した施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するとともに、市民が学習しやすい環境を整備する	基本施策 2－1 施設運営や学習機会に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備	主な取組 2－1－1 社会の変化や市民の学習ニーズに対応した学習環境の整備 主な取組 2－1－2 関係機関等との多様な連携による学習機会の提供
		基本施策 3－1 地域における教育力の向上	主な取組 3－1－1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備 主な取組 3－1－2 地域社会を担う団体や人材の育成支援
基本目標 3 地域における学びの循環	成果目標 3 市民が、学びの成果を地域づくりに生かしたり、学校、家庭、地域が連携・協働し、つながりを深めながら学び合えたりすることができるよう、地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させる	基本施策 3－2 学校、家庭、地域の連携・協働の推進	主な取組 3－2－1 学校、家庭、地域の連携・協働によるつながり、学び合える環境の整備
		基本施策 4－1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実	主な取組 4－1－1 文化芸術に親しむ機会の充実 主な取組 4－1－2 文化芸術活動への支援
基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実	成果目標 4 市民が、日頃から文化芸術に触れ、心豊かな生活を送ることができるよう、気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る	基本施策 5－1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成	主な取組 5－1－1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用 主な取組 5－1－2 郷土愛を育むための取組の推進
基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成	成果目標 5 市民が、地域を知り、郷土への愛着を深めることができるよう、アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信するとともに、その保存・活用に努め、次代へ引き継ぐ		

(2) 旭川市社会教育基本計画

社会教育 基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実

【成果目標 1】市民が、主体的に学び、人生における各段階で直面する課題や社会的な課題解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応える学習機会の充実を図る。

I 活動指標及び成果指標の状況

1 施設等の利用者及び事業参加者について

活動指標 1		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座の受講者数	社会教育課*1	4,200 人	1,220 人	未達成	↘
	公民館事業課	121,341 人	52,468 人	未達成	↘
	中央図書館	254 人	101 人	未達成	↘
	科学館	55,840 人	62,803 人	達成	—

社会教育課

生涯学習フェアまなびピアあさひかわの来場者数(人)

公民館事業課

公民館事業の参加人数(人)

中央図書館

読書講演会、子育て支援絵本講座の参加者数(人)

科学館

各種実験実習イベント参加者数(人)

活動指標 2		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座への参加者の満足度(事業内容が役立った)	社会教育課	—	84.7%	—	—
	公民館事業課	83.3%	70.8%	未達成	↘
	科学館	—	97.1%	—	—

公民館事業課

公民館利用者へのアンケート調査の結果(講座内容が役に立った)(%)

- ・社会教育課：主催事業参加者へのアンケート調査の結果
(生涯学習フェアまなびピアあさひかわ・ジオパーク構想推進事業)
- ・科学館：科学館事業参加者へのアンケート調査の結果
(科学館の講座(イベント)に参加して学び(満足)を得られた参加者の割合)

活動指標 3		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
事業に参加して、学びたいことを学ぶことができた参加者の割合(自分の課題や社会的な課題を解決するのに役立った)	社会教育課	—	78.3%	—	—
	彫刻美術館	—	78.1%	—	—
	中央図書館	—	99.0%	—	—

- ・社会教育課：主催事業参加者へのアンケート調査の結果
(生涯学習フェアまなびピアあさひかわ・ジオパーク構想推進事業)
- ・中央図書館：図書館事業参加者へのアンケート調査の結果
- ・彫刻美術館：彫刻美術館事業参加者へのアンケート調査の結果

*1 R2, 3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から調査未実施

活動指標 4		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
青少年活動に関する事業への参加者数	社会教育課	4,200 人	1,220 人	未達成	↘
	彫刻美術館	—	581 人	—	—
	公民館事業課	13,126 人	3,438 人	未達成	↘
	中央図書館	—	101 人	—	—
社会教育課 生涯学習フェアまなびピアあさひかわの来場者数(人)【再掲】 公民館事業課 青少年教育事業への参加者数(人)					
・ 彫刻美術館：彫刻巡回展示出前授業の参加児童生徒数及びこども彫刻教室の参加者数 ・ 中央図書館：読書講演会、子育て支援絵本講座の参加者数					
活動指標 5		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
ライフステージに対応した講座数	社会教育課	—	51 回	—	—
	公民館事業課	—	3,874 回	—	—
・ 社会教育課：学校における地域学校協働活動事業の実施回数 ・ 公民館事業課：家庭教育支援、青少年教育、成人学習、高齢者学習等に関する事業実施回数					
活動指標 6		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
まなびネットあさひかわのアクセス件数	社会教育課	148,500 件	155,762 件	達成	—
旭川市生涯学習ポータルサイト 「まなびネットあさひかわ」のアクセス件数(件)					
活動指標 7		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
学びに関する情報冊子等に登録している活動数	社会教育課	—	92 件	—	—
	公民館事業課	—	529 団体	—	—
・ 社会教育課：あさひかわ学びの応援講座の登録講座数 ・ 公民館事業課：生涯学習活動団体の登録数					
活動指標 8		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
学びに関する情報提供を行っていると思う参加者の割合	公民館事業課	—	調査未実施	—	—
・ 公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果					
活動指標 9		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
家庭教育の支援に関する講座への参加者数	社会教育課	—	185 人	—	—
	公民館事業課	8,328 人	2,572 人	未達成	↘
公民館事業課 家庭教育支援講座の参加者数(人)					
・ 社会教育課：家庭教育支援に関する講座の受講者数					
活動指標 10		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
家庭教育の支援に関する講座の実施回数	社会教育課	—	6 回	—	—
	公民館事業課	—	206 回	—	—
・ 社会教育課：家庭教育支援に関する講座の実施回数 (家庭教育支援事業、社会教育活動補助金(家庭教育)を活用した事業等) ・ 公民館事業課：家庭教育支援講座の実施回数					

活動指標 1 1		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
家庭教育に関する情報提供の回数	社会教育課	—	1 回	—	—
	公民館事業課	—	12 回	—	—
・社会教育課：家庭教育・子育て情報紙の発行回数 ・公民館事業課：公民館・子育てサロン情報の発信回数					
活動指標 1 2		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
子育てや家庭教育についての情報提供や学ぶ機会が充実していると感じる参加者の割合	社会教育課	—	32.1%	—	—
	公民館事業課	—	96.7%	—	—
・社会教育課：家庭教育支援に関する講座参加者へのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果					

参加者・利用者の意識

成果指標 1		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
事業に、主体的に参加し、学ぶことができた参加者の割合	社会教育課	—	60.0%	—	—
	中央図書館	—	100.0%	—	—
	全体	—	80.0%	—	—
・社会教育課・中央図書館：事業に、主体的に参加し、学ぶことができた参加者の割合					
成果指標 2		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
これからも、学んでいこうと思っている参加者の割合	社会教育課	—	82.4%	—	—
	彫刻美術館	—	調査未実施	—	—
	公民館事業課	—	94.6%	—	—
	中央図書館	—	98.0%	—	—
	科学館	—	調査未実施	—	—
	全体	—	91.7%	—	—
・社会教育課・彫刻美術館・公民館事業課・中央図書館・科学館：これからも、学んでいこうと思っている参加者の割合					

2 市民の意識について*1

活動指標 1 3		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
社会的課題やライフステージに対応した様々な学びのニーズに応えていると感じる市民の割合	市政モニター	—	37.1%	—
活動指標 1 4		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
この1年間に公的機関における講座や教室で生涯学習を行った市民の割合	市政モニター	—	10.7%	—
活動指標 1 5		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
趣味・教養の講座や今日的な課題などについて学ぶ機会が充実していると感じる市民の割合	市民アンケート	22.2%	24.7%	↗
活動指標 1 6		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
生涯学習に関する情報を十分に得られている市民の割合	市政モニター	—	31.4%	—
活動指標 1 7		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
子育てや家庭教育についての情報提供や学ぶ機会が充実していると感じる市民の割合	市政モニター	—	30.2%	—
活動指標 1 8		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
生涯を通じた学びの振興に満足している市民の割合	市民アンケート	16.6%	15.2%	↘

*1 市民アンケートは隔年実施（前回は令和3年度実施）

成果指標 3		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4 実績値との比較
職業や生活に必要な知識を身に付けたり、自己実現を図ったりするために、主体的に学び続けている市民の割合	市政モニター	—	58.5%	—
成果指標 4		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4 実績値との比較
自ら学習に取り組もうとしている人が多いと思う市民の割合	市政モニター	—	32.1%	—

Ⅱ 取組の状況

【基本施策 1－1 社会的な課題や多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供】

主な取組 1－1－1 現代的・社会的な課題や多様なニーズに対応した学習の推進

1 国際化に伴う異なる文化・習慣への理解の促進

- ・社会教育課では、生涯学習フェアを開催し、韓国の伝統的な衣装の試着体験や本市の姉妹友好都市を紹介するパネル展を実施し、事業後アンケートでは、「身の回りの問題について学ぶことができた」と回答した来場者は約 73% であり、他国の文化、習慣についての学習機会を提供することができました。
- ・公民館では、海外居住経験者からスペインやロシアについて学ぶ講座等を実施し、国際交流に関心を持つきっかけとなる学習機会を提供しました。

2 身の周りや地球規模での資源・環境問題への理解の促進

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、環境やごみ、リサイクル、生物などについて体験講座やパネル展で紹介し、事業後アンケートでは、「身の回りの問題について学ぶことができた」と回答した来場者は約 73% であり、環境や資源についての学習機会を提供することができました。
ジオパーク構想推進事業では、大雪山の成り立ちを学ぶ講座を実施し、事業後アンケートでは、「地域の自然や火山について学ぶことができた」と回答した参加者は約 96% でした。また、ラフティングを取り入れたジオ・ツアーを実施し、事業後アンケートでは、「川の魅力がわかった」と回答した参加者は約 97% であり、事業を通して地域の自然について学んでもらうことができました。
- ・公民館では、環境アドバイザーや生ごみマイスター等との連携・協力により、SDGs について意見交流するグループワークや、生ごみ堆肥づくりを通したごみの減量を学ぶ講座等を実施し、自然・環境に関する理解や啓発を図りました。
- ・科学館では、常設展示のデジタル地球儀「いまの地球とみらいの地球」を用いた「科学館 de SDGs」「自然体験学習（特定外来生物ウチダザリガニを捕まえよう、など）」を実施し、参加者の約 96% が高く評価する事業となりました。「SDGs への理解が深まった」「実際に生物に触れることでより深く知ることができた」「環境保全の重要性が理解できた」といった意見や感想から、「SDGs の本質を伝える」「地域の自然環境への関心を高める」「生き物や自然との付き合い方を学ぶ」といった事業目的どおりの成果を上げることができました。

3 情報化に伴う ICT の利活用の促進

- ・公民館では、市民が ICT を活用できるようスマートフォンの安全な使い方や、オンライン会議への参加方法を学ぶ講座を実施し、ICT に関する知識や技術を習得するための学習機会を提供しました。
- ・科学館では、「パソコン基礎講座」「パソコンクラブ」「親子ではじめるプログラミング講座」「Python 入門講座」といった実技を取り入れた講座を実施し、参加者の約 94% から「理解が深

まった」「プログラミングへの興味関心が高まった」など高い評価を得られ、一定の成果を上げることができました。

4 デジタルデバイド（情報格差）の解消及びデジタルリテラシーの向上を図る学習の促進

- ・科学館では、「パソコン基礎講座」「はじめてのスマートフォン講座」をデジタル格差が生じる世代を中心に必要な知識や注意点を伝えながら実施することで、参加者の約92%から高い評価を得ることができ、「聞きたいこと、知りたいことがわかった」「生活に必要なことなので講座があるのは助かる」といった感想や意見が寄せられるなど講座の必要性を実感でき、デジタル格差の解消やデジタルリテラシーの向上を図る学習機会を提供することができました。
- ・公民館では、初心者向けのスマートフォン講座を実施することで、簡単な操作や安全に使う方法を学ぶ機会を提供しました。

主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実

1 幼児、青少年期の生きる力を身に付ける学習機会の提供

- ・社会教育課では、モデル地域における地域学校協働活動として、クラブ活動の講師を地域の方が担う「あさひやまなんでもクラブ」での講師や、中学校の美術部の生徒が制作した作品の高齢者施設での展示や職場体験の受入れ先をコーディネートしました。
生涯学習フェアでは、環境問題や食など、市の取組等を紹介するパネル展や体験会等を実施したほか、クイズラリーを取り入れて、楽しく学べるよう工夫しました。来場者アンケートでは、出展ブースの7割以上を回った児童は約20%でしたが、全ての回答者が「楽しみながら学ぶことができた」と回答しており、環境問題や食について楽しみながら学ぶ機会を提供することができました。
- ・公民館では、自然散策やものづくり、料理などの体験事業に加え、地域住民の協力の下で農業体験を実施するなど、様々な知識や経験を身に付ける機会を提供しました。
- ・図書館では、絵本について理解を深める絵本講座や作家によるトークイベントを実施しました。事業後アンケートでは、「これからも主体的に学んでいきたい」という意見が大半を占めました。
- ・彫刻美術館では、講師の指導を受けながら造形活動を行う彫刻教室のほか、小中学生が優れた芸術作品を気軽に鑑賞できる機会を提供する彫刻巡回展示を行い、芸術文化を通じた学習機会の提供を行うことで、視覚などの感覚で捉えたことや思考したことを自分なりに他者に伝える表現力の学びにつなげました。

2 成人期のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、環境問題や食など、市の取組等を紹介するパネル展や体験会等を実施し、来場者アンケートでは、出展ブースの7割以上を回った成人の方は約20%でしたが、回答者の約80%が「学びたいことを学ぶことができた」と回答しており、環境問題や食など様々な事柄について学ぶ機会を提供することができました。
- ・公民館では、ボランティア養成講座や、健康、ニュースポーツ、金融、ICTに関する学習等、趣味や教養に関する幅広い分野の講座を実施しました。
- ・図書館では、主な事業として、JICA海外協力隊派遣経験者の講演や、道立旭川美術館学芸員による工芸や彫刻について学ぶ講座を実施しました。事業後アンケートでは、「これからも主体的に学んでいきたい」という意見が大半を占めました。
- ・彫刻美術館では、参加者を子どもに限定しない彫刻教室を実施し、幅広い世代に学習機会を提供しました。

3 高齢期の生きがいづくりなどに関する学習機会の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、環境問題や食など、市の取組等を紹介するパネル展や体験会等を実施しました。来場者アンケートでは、出展ブースの7割以上を回った高齢期の方は約10%でしたが、回答者の約60%が「学びたいことを学ぶことができた」と回答しており、

環境問題や食など様々な事柄について学ぶ機会を提供することができました。

- ・公民館では、年間カリキュラムに基づき、シニア大学や各公民館の百寿大学を中心に、高齢者が社会と関わりを持ちながら豊かに人生を過ごせるよう、高齢者の仲間づくりとともに、一般教養や軽スポーツ等の講座を実施しました。

主な取組 1－1－3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実

1 講師情報や活動団体に関する情報の提供

- ・社会教育課では、生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」において、講師・指導者やサークル・団体、公民館の講座やイベント情報を提供しました。また、講師等から提供された具体的な指導内容を掲載した「あさひかわ学びの応援講座」については、民間が実施する37の講座を掲載しました。
- ・公民館では、公民館を拠点に生涯学習活動を行う団体の情報をインターネットで紹介するとともに、館内掲示や公民館だより等の紙媒体で情報提供を行ったほか、活動団体と連携し、体験・見学会を実施しました。

2 課題解決を支援する各種情報の提供

- ・社会教育課では、行政や民間が実施する98の講座を掲載した「あさひかわ学びの応援講座」を市内の小中学校や町内会等に配布するとともに、ホームページで公開しました。
- ・図書館では、レファレンス業務を通じて、34,854件の学びに関する情報提供を行いました。

【基本施策 1－2 子育て家庭への支援体制の充実】

主な取組 1－2－1 保護者の育ちを支援する学習機会の充実

1 家庭教育に関する学習機会の充実

- ・社会教育課では、公民館事業の親子陶芸教室や小学校の参観日、親子で参加する催しなど、保護者が多く集まる機会に家庭教育に関する情報提供や講座を行いました。
- ・公民館では、アンガーマネジメントや片付け講座を実施したほか、親子参加の講座など保護者が集まる機会に、子どもの生活リズムやSNS利用等の情報提供を行いました。
子育てサロンでは、地域住民の協力の下、子育て相談や保護者同士の交流により、家庭教育について振り返る機会を提供しました。

2 父親の家庭教育への参加を支援する取組の充実

- ・公民館では、親子参加型事業の一部を土曜日や日曜日に開催することで、父親も参加しやすい環境づくりを行いました。

主な取組 1－2－2 保護者を孤立させない支援体制の充実

1 家庭教育に関する情報の提供

- ・社会教育課では、保護者と子どもが多く集まる催しで学びカフェを開催し、家庭教育ナビゲーターが保護者から子育てに関する悩み等の聞き取りを行うとともに、食や生活習慣に関する情報提供を行いました。
- ・公民館では、子育てに関する講座や育児サークルの情報をインターネット等で毎月提供しました。

2 子育て中の保護者のネットワークづくりの支援

- ・社会教育課では、保護者がネットワークづくりを行う場となる子育てサロンなどに関わる家庭教育支援者を対象とした研修会を実施し、スキルアップを支援しました。
- ・公民館では、地域の民生委員児童委員連絡協議会等と連携して実施する子育てサロンを通じて、

保護者同士の交流が図られるよう支援しました。

Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

令和５年度の事業の点検・評価は、令和４年度に実施した旭川市社会教育基本計画の「中間見直し」により見直した点検・評価方法に基づいて実施しました。

利用者数や参加者数など行政の取組（活動）を見取る「活動指標」、事業実施による市民の意識や行動の変化を見取る「成果指標」について、事業終了時に実施する参加者アンケートのほか、市民の意識や行動の変容を把握する「旭川市民アンケート調査」や「市政モニター制度」を活用して評価し、成果目標である「市民が人生の各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できる」ような取組ができたかどうかを視点に事業の在り方を検討します。

＜基本目標１ 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実＞

事業後に参加者に行ったアンケートでは、「事業に、主体的に参加し、学ぶことができた参加者の割合」は約８０％、「これからも、学んでいこうと思っている参加者の割合」は約９２％であり、各種事業において、主体的な学びの機会は提供できていると考えられます。

しかしながら、市政モニターアンケートでは、「職業や生活に必要な知識を身に付けたり、自己実現を図ったりするために、主体的に学び続けている市民の割合」が約５９％、「自ら学習に取り組もうとしている人が多いと思う市民の割合」が約３２％と、事業後アンケートの結果よりも低い数値となっています。また、「この１年間に公的機関における講座や教室で生涯学習を行った市民の割合」が約２５％、「生涯を通じた学びの振興に満足している市民の割合」が約１５％などと、生涯学習の取組について市民への定着が不足しています。

今後は、市民が主体的に学び、様々な課題を解決できるようニーズのみならず社会的な課題について学ぶ講座を充実させるとともに、多くの市民が主体的に学ぶことができるような事業の実施や体制づくりに取り組んでいきます。

＜１－１－１ 現代的・社会的な課題や多様なニーズに対応した学習の推進＞

- 社会教育課で実施した生涯学習フェアにおける来場者アンケートを年齢別に見ると、全世代において半数以上の来場者が「身の回りの問題について学ぶことができた」と回答しました。引き続き、体験講座やパネル展等様々な方法で学びを深める機会を提供していきます。

ジオパーク構想推進事業の事業後アンケートでは、「また参加したい」「住んでいる地域の自然についてもっと知りたい」などの回答がありました。引き続き、地域の自然環境について楽しみながら学ぶ機会を提供していきます。

- 公民館では、社会的要請を踏まえ、国際交流、資源・環境問題について考えてもらうきっかけとなる講座を、関係団体のノウハウを活用し、引き続き実施していきます。

I C T講座については、実施したスマートフォン講座のアンケートでも引き続き学びたいとの回答が多く、初心者向けだけでなく、アプリの使い方を知りたいといったニーズもあったことから、幅広く講座を展開するとともに、詐欺等のトラブル防止も含めた学習機会の充実に努めています。

- 科学館では、いずれの事業も参加者の多くから継続と内容の充実、参加機会の拡充を求める声が寄せられていますが、科学館が単独で多様な事業を実施し、多数の参加希望者を受け入れ続けるには限度があります。今後は、講座参加者がより学習を深められるよう工夫を重ね、学習者の多様なニーズに応えられるよう外部の組織や団体との連携・協力、外部講師の活用など、様々な手法を工夫していきます。

＜１－１－２ ライフステージに応じた学習機会の充実＞

- 社会教育課が実施した生涯学習フェアにおける事業後アンケートでは、各世代において、約６０％以上の来場者が「学びたいことを学ぶことができた」と回答しており、引き続き、各世代の学びのニーズに合わせ、楽しみながら学びを深めることができるよう、手法を工夫していきます。

地域学校協働活動では、引き続き、学校や地域と連携しながら、子どもが地域について学び、多様な体験ができるようコーディネートしていきます。

- 公民館の事業では、アンケート結果としては良かったなど好意的な回答が多いものの、参加者が少ないものもあることから、アンケートによるニーズ把握や講師の発掘も含め、幅広い参加が得られるよう適宜内容の見直しを図っていきます。

また、特に高齢者学習では、学びだけでなく、健康維持・生きがい・つながりづくりに資する事業を実施できるよう、地域包括支援センター等の関係機関と連携していきます。

- 図書館の事業では、幼児やその保護者向けに絵本講座や絵本作家によるトークイベント、成人向けにJICA講演、高齢者向けに美術館学芸員による講座等、様々なライフステージに応じた学びの機会の提供に努めました。事業後アンケートでは、事業に対して好意的な意見が多く、引き続き、市民の読書活動につながる学習機会の提供に努めます。
- 彫刻美術館が実施する企画展や教育普及活動を通じて、より多くの市民に興味を持ってもらえるよう、様々な手法で彫刻の多様性に触れてもらうなど、美術関係者等と協議しながら事業の内容を工夫し実施していきます。彫刻巡回展示については、実施校に偏りがあることから、更に事業の周知に努め、実施校の平準化を図ります。

また、彫刻教室が各世代の趣味、教養に関わる学習機会の充実につながるよう、関係者と事業の内容を協議しながら、成人も含め年齢を問わず参加できる学習機会の充実を図ります。

＜1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実＞

- 社会教育課で運用している生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」については、サイトをリニューアルし、スマートフォンでも使いやすくなりましたが、サイトの一部について見づらい、使いづらいとの意見がありました。システム上、サイトのデザインを変更することは困難なため、可能な範囲で見やすく使いやすくなるように運用を工夫していきます。

また、市や民間団体による学習会、体験会情報を掲載する「あさひかわまなびの応援講座」については、SDGsとの関連の追記やジャンルを見直すなど、市民が活用しやすい内容となるようにしていきます。

- 公民館では、インターネットや公民館だより等の多様な媒体で、公民館を拠点に様々な活動に取り組む団体やサークルの情報を積極的に発信し、公民館の利用者や市民が学習ニーズに合った情報を取得できるようにしていきます。

また、地域への協力を希望する団体の情報を、小中学校等へ提供しコーディネートしていくなど地域学校協働活動の拠点としての役割を果たしていきます。

- 図書館でのレファレンスサービスについては、昨今のインターネット環境を前提として、書籍や各種データベースの情報も合わせながら複数メディアを比較しつつ利用者に確かな情報を提供していきます。

＜1-2-1 保護者の育ちを支援する学習機会の充実＞

- 社会教育課では、引き続き、保護者が多く集まる機会に、家庭教育に関する情報提供を行います。また、様々な人が簡単に情報を入手できるよう、市ホームページに家庭教育に関する情報を掲載していきます。

- 公民館では、親子参加型の事業や保護者が多く集まる機会などに、家庭教育に関する情報や子育てに役立つ情報を提供していきます。

また、父親が参加しやすいよう、平日だけでなく土・日曜日開催の事業も引き続き実施していきます。

＜1-2-2 保護者を孤立させない支援体制の充実＞

- 社会教育課では、学びカフェを3回実施しましたが、さらに多くの催しで実施できるよう、民間で実施する事業を含めて開催機会を増やせるよう取り組んでいきます。

学びカフェ参加者に実施したアンケートでは、「市が子育てや家庭教育支援についての情報提供や学習機会を充実させているか」について、「充実させている」と回答した方が約32%しかいないため、多くの方が集まる催しでのパンフレット等の配布や市ホームページの情報を充実さ

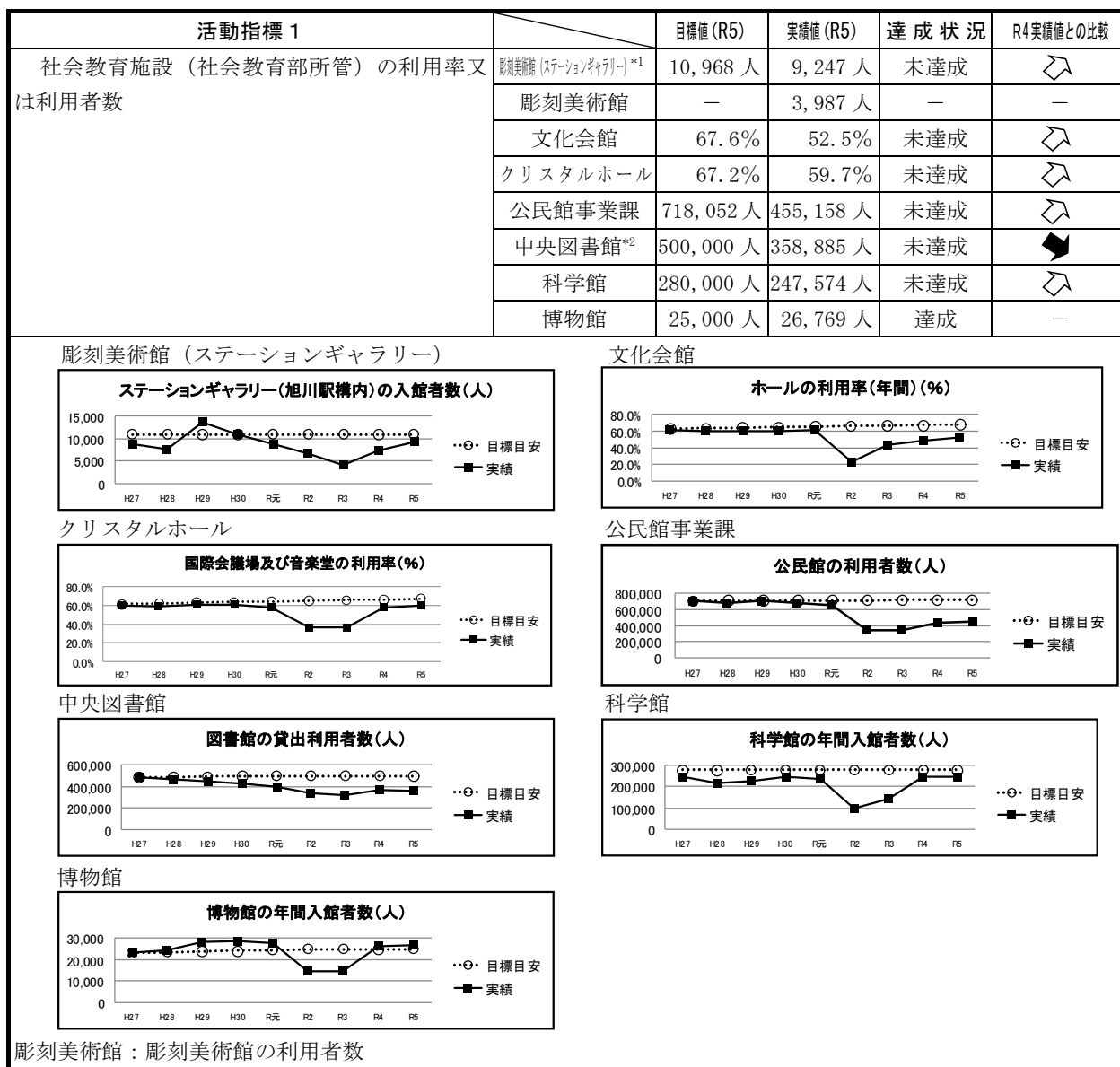
せるなど，手法を工夫していきます。

- 公民館の子育てサロンや子育て広場については、毎回多くの子育て中の保護者や妊婦が参加しており、参加者が互いに相談や交流ができる場となっていることから、今後も地域の機関と連携し実施していきます。

社会教育 基本目標2 市民の学びを支える環境の整備

【成果目標2】社会の変化や新たなニーズに対応した施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するとともに、学習しやすい環境を整備する。

I 活動指標及び成果指標の状況



*1 計画策定時、彫刻美術館は休館していたため、ステーションギャラリーの入館者数を指標としていた

*2 中央図書館は貸出利用者数

活動指標 2		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
社会教育施設を利用しやすいと感じる利用者の割合	文化会館	—	75.0%	—	—
	クリスタルホール	—	94.8%	—	—
	公民館事業課	67.1%	60.4%	未達成	▲
	中央図書館	—	91.0%	—	—
	科学館	—	98.0%	—	—
公民館事業課 公民館利用者へのアンケート調査の結果 (施設・貸出物品が快適に使える)(%)					
・文化会館：文化会館利用者へのアンケート調査の結果（利用しやすい） ・クリスタルホール：クリスタルホール利用者へのアンケート調査の結果（利用しやすい） ・中央図書館：図書館利用者へのアンケート調査の結果（利用しやすい） ・科学館：科学館利用者へのアンケート調査の結果（利用しやすい）					
活動指標 3		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
社会教育施設が社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営を行っていると感じる利用者の割合	彫刻美術館	—	調査未実施	—	—
	文化会館	—	60.9%	—	—
	クリスタルホール	—	78.7%	—	—
	公民館事業課	—	93.5%	—	—
	中央図書館	—	88.0%	—	—
	科学館	—	93.1%	—	—
・彫刻美術館：彫刻美術館利用者へのアンケート調査の結果 ・文化会館：文化会館利用者へのアンケート調査の結果 ・クリスタルホール：クリスタルホール利用者へのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果 ・中央図書館：図書館利用者へのアンケート調査の結果 ・科学館：科学館利用者へのアンケート調査の結果					
活動指標 4		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
地域の特色を生かした事業への参加者数	公民館事業課	341 人	1,818 人	達成	—
	中央図書館	1,718 人	838 人	未達成	▲
公民館事業課 地域の特色を生かした事業への参加者数(人) 中央図書館 図書館まつりの参加者数(人)					

活動指標 5		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
高等教育機関等との連携による事業実施回数	社会教育課	6 回	8 回	達成	—
	公民館事業課	100 回	75 回	未達成	↘
	中央図書館	3 回	4 回	達成	—
社会教育課 旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの連携による事業実施回数(回) 公民館事業課 高等教育機関と連携した講座の実施回数(回) 中央図書館 図書館講座及び大学図書館と連携した職員研修の実施回数(回) 					
活動指標 6		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
社会教育施設が様々な機関や団体と連携した学習機会を提供していると感じる利用者の割合	社会教育課	—	調査未実施	—	—
	公民館事業課	—	100.0%	—	—
	中央図書館	—	91.0%	—	—
・社会教育課：旭川ウェルビーイング・コンソーシアム事業参加者へのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果 ・中央図書館：図書館利用者へのアンケート調査の結果					
活動指標 7		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
社会教育施設が学習しやすい環境となっていると感じる利用者の割合	文化会館	—	56.3%	—	—
	クリスタルホール	—	75.1%	—	—
	公民館事業課	—	100.0%	—	—
	科学館	—	96.6%	—	—
・文化会館：文化会館利用者へのアンケート調査の結果 ・クリスタルホール：クリスタルホール利用者へのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果 ・科学館：科学館利用者へのアンケート調査の結果					

2 市民の意識について

活動指標 8		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
社会教育施設を利用しやすいと感じる市民の割合	市政モニター	—	61.0%	—
活動指標 9		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
社会教育施設が社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営を行っていると感じる市民の割合	市政モニター	—	39.0%	—
活動指標 10		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
社会教育施設が様々な機関や団体と連携していると感じる市民の割合	市政モニター	—	28.3%	—
活動指標 11		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
社会教育施設が学習しやすい環境となっていると感じる市民の割合	市政モニター	—	35.2%	—
活動指標 12		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
生涯を通じた学びの振興に満足している市民の割合	市民アンケート	16.6%	15.2%	↘

Ⅱ 取組の状況

【基本施策２－１ 施設運営や学習機会に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備】

主な取組２－１－１ 社会の変化や市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備

１ 社会の変化や市民の学習ニーズを反映した社会教育施設の運営

- 彫刻美術館とステーションギャラリーの２館における常設展示や旭川にゆかりのある作家などの企画展を通して、彫刻に触れる機会を提供するとともに、「彫刻のまち旭川」の魅力を発信しました。また、ステーションギャラリーでは、川村カ子トアイヌ記念館の新築開館を記念し、旭川ゆかりの日本画家小浜亀角がアイヌの暮らしを描いた作品を紹介する「小浜亀角のアイヌ画」展を実施するなど彫刻のみならず幅広い文化芸術の発信拠点としての活用を図りました。
- 文化会館及び公会堂では、施設運営に係る業務を民間に委託し、保守点検や施設の維持管理を行いました。また、自主文化事業として、クラシックバレエや宝くじまちの音楽会などの文化芸術を鑑賞する機会を提供しました。
- クリスタルホールでは、これまで、遠方の利用者の使用料収納方法を現金書留のみとしていましたが、利用者のニーズや利便性を考慮し、口座振込も選択できるようにしました。また、利用者がボランティアの活用を希望する際に、カウンター係やドア係など必要な業務のみを選択し活用できるようにしました。
- 公民館では、利用者アンケートや地域住民と公民館の運営について協議する公民館フォーラムを通してニーズを把握しながら、適宜、施設・設備の修繕を実施するなど、適切な管理運営に努めました。また、一部の公民館では地域で組織する団体が指定管理者制度により運営を行っています。利用者アンケートでは、「施設・貸出物品が快適に使える」との回答が約６０％に留まっており、施設老朽化の影響等が見られます。なお、オンライン会議やネット配信の活用など今日的な学習方法に対応できるよう、新たに神楽公民館と永山公民館の２館にWi-Fi環境を整備しました。
- 中央図書館では、来館者アンケートの回答者の約９０％が「利用（学習）しやすい」「社会の変化や新たなニーズに対応していると感じる又は少し感じる」と回答しており、市民の学習ニーズを反映した運営ができました。
- 科学館で実施した来館者アンケートでは、約９０％以上が「楽しみながら学べる場所」「スタッフが親切」「プラネタリウムが素晴らしい」と回答し、施設利用や学習環境に対して高評価が得られました。
- 博物館では、常設展示に加え、北国の動物の生き生きとした姿を紹介する写真展や市内の遺跡から出土した土器を紹介する企画展などのほか、体験学習、アイヌ文化を紹介するイベントなどを実施し、来館者数は昨年度より約３％増加の２６，７６９人でした。来館者アンケートや事業後アンケートでは、「展示が充実している」「分かりやすい」「学びが深まった」との声があり、約９０％が満足と回答していることから、来館者の学習ニーズや興味・関心に応えることができました。

２ 誰もが利用しやすい社会教育施設の整備

- 文化会館では、空調設備や大ホール舞台設備の改修を行ったほか、地下電気室設置の高圧変電設備の更新改修工事を行いました。
- 大雪クリスタルホールでは、冷房用チラーが故障し温度調整が不十分となっていたため、更新工事を行いました。また、ホールにあるグランドピアノの全弦交換を行い、利用者が快適に音楽堂を使用できる環境を整備しました。

３ 社会教育施設の拠点機能の充実

- 文化振興課が所管する旭川文学資料館では、運営を行うＮＰＯ法人により旭川ゆかりの文学資料の収集・保存と整備が年間を通して進められており、令和５年度末までに計８２，１０８件がデ

ータベース化され、文学の拠点機能としての役割を果たしました。

主な取組 2－1－2 関係機関等との多様な連携による学習機会の提供

1 高等教育機関等との連携による高度な学習機会の提供

- ・社会教育課では、市内の高等教育機関の連携機関である旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの共催で「あさひかわオープンカレッジ」を引き続き実施し、事業後アンケートでは「有意義な講座だった」「勉強になった」等の回答があり、市民に大学教授等から健康や哲学、言語など様々な分野で学ぶ機会を提供することができました。
- ・公民館では、市内大学や高等専門学校等の協力の下、各機関の持つ高い専門性を生かした医療や健康等に関する講座を実施しました。
- ・中央図書館では、ガンに関する正しい知識を普及させるため、旭川医科大学と連携してガンに関する冊子を設置しており、常に最新の正しい知見が利用者に伝わるよう随時冊子の更新をしています。

2 社会教育関係団体等との連携による特性を生かした学習機会の提供

- ・社会教育課では、「あさひかわ学びの応援講座」を発行し、市内の社会教育団体と連携し、子育てや自然環境、趣味等様々な分野の37の講座や講師情報を紹介しており、市民に学習機会の情報を提供しました。
- ・公民館では、社会福祉協議会やNPO法人、生涯学習団体等様々な分野の団体と共催又は連携し、ボランティア養成や自然環境、文化芸術などの講座を実施しました。参加者アンケートでは、「様々な機関や団体と連携した学習機会を提供している」と感じる利用者の割合が100%となり、各団体が持つノウハウを生かした学習機会を提供できました。
- ・中央図書館では、ボランティアと連携して絵本の読み聞かせ養成講座や視覚障がい者のための音訳技術講習会を実施し、参加者アンケートでは、約90%が「学習しやすい環境となっている」「様々な学習機会を提供している」と回答し、関係団体と連携した学習機会を提供できました。

3 市長部局との積極的な連携による学習機会の提供

- ・社会教育課では、市の各部局と連携し、市職員や関係団体の職員等を講師として派遣する61の出前講座の情報を「あさひかわ学びの応援講座」としてホームページで公開しているほか、情報をまとめた冊子を市有施設に設置し、多様な学習機会を提供しました。
- ・公民館では、市の各部局の講師派遣事業を活用するなど、行政機関のノウハウを生かした農業・環境等多岐にわたる分野の講座を実施しました。

Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

市民の主体的な学びを支援するため、高等教育機関等の専門的知見を生かした取組を充実させるとともに、社会の変化や市民の新たなニーズに対応した社会教育施設の運営に努めます。

《基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備》

社会教育施設について、各施設の利用者へのアンケートと市政モニターアンケートの調査結果を比較したところ、社会教育施設の利用のしやすさについて、「利用しやすい」と回答した利用者は約84%、市政モニターは61%、社会教育施設が社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営を行っているかについては、「行っている」と回答した利用者は約83%、市政モニターは39%、社会教育施設が学習しやすい環境となっているかについては、「なっている」と回答した利用者は82%、市政モニターは約35%、また、様々な機関や団体と連携した学習機会を提供しているかについては、「目標値を達成し、提供している」と回答した利用者は約96%、市政モニターは約28%であり、いずれも各施設の利用者アンケートよりも市政モニターアンケートの方が低い割合であり、市民に施設の取組が理解されていないという結果となりました。

今後は、施設利用者のみならず、市民にも施設の取組等を理解してもらえるよう、社会の変化や新たなニーズに対応した施設運営を行うとともに、様々な機関や団体と連携し、本市の特性を生かした事業を多く展開できるよう努めます。

＜２－１－１ 社会の変化や市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備＞

- 文化振興課では、旭川文学資料館の運営を引き続きＮＰＯ法人に委託することで旭川ゆかりの文学資料の蓄積を遅滞なく進め、市民へのリファレンス機能の充実に努めます。
- 彫刻美術館では、観覧者数は徐々に増えているものの、市民により一層興味を持ってもらえるよう、ステーションギャラリーと連動した魅力ある企画展や外部機関との連携、ギャラリートーク、ワークショップ等を開催し、「彫刻のまち旭川」を発信する場としての機能強化を図ります。
- 文化会館では、築４９年が経過し、建物や設備の老朽化が進んでいることから、建て替えとしての整備基本構想を策定したところであり、今後は具体的な整備計画の検討を進めていきます。
公会堂では、施設が老朽化していることから、建物や設備の保守管理等を適切に行うとともに、施設利用に支障が生じないよう必要な補修等に努めます。
- 大雪クリスタルホールでは、施設運営に係るアンケートにおいて、ソフト面では広報が不足しているとの意見があったため、チラシをホームページやＳＮＳに掲載するなど情報発信に努めます。また、学習しやすい環境だと感じる利用者の割合は約７５％であり、近年は施設の経年劣化による突発的な不具合や故障、破損等が発生していることから、利用者が少しでも快適に学習できる環境を整備するため、計画的な補修等に努めます。
- 公民館では、引き続き、公民館フォーラムや利用者アンケート等で住民の学習ニーズを把握し、その状況に合わせた学習環境を整備するよう努めていきます。また、老朽化が進んでいる施設もあることから、計画的な補修等に努めていきます。
- 中央図書館では、来館者アンケートにおいて、約９０％が「利用しやすいと思う・少し思う」「社会の変化や新たなニーズに対応していると感じる・少し感じる」と回答していますが、地区図書館を含め全施設の老朽化が進んでいることから、計画的な補修等に努めます。また、電子書籍やインターネット予約等の非来館型サービスのＰＲを更に進め、利便性の向上に努めていきます。
- 科学館では、今後も最新の知見や情報をいち早く取り入れた展示や事業、イベントを実施するとともに、ホームページの改善やＳＮＳの活用を進め、情報発信力の強化に取り組むことで、施設利用の満足度を高めていきます。
- 博物館では、海外からの観光客も増えており、来館者アンケートでも英語表示をすべきとの意見があることから、展示の英語表記に取り組みます。

＜２－１－２ 関係機関等との多様な連携による学習機会の提供＞

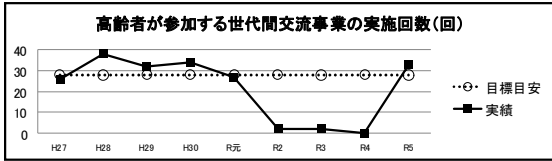
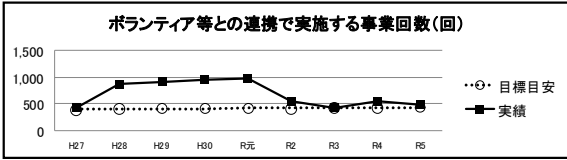
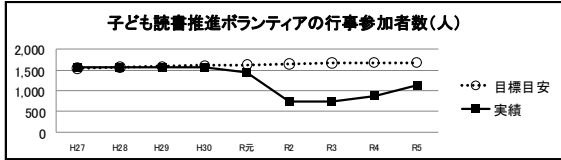
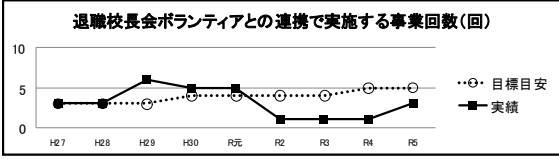
- 社会教育課では、「あさひかわオープンカレッジ」の参加者の多くが５０代以上であることから、１０代～２０代の学生が参加しやすいような申込方法や広報について、旭川ウェルビーイング・コンソーシアムと協議していきます。また、「あさひかわ学びの応援講座」は、民間や市長部局と連携し、掲載する講座を増やすよう努めるほか、ＳＤＧｓとの関連の追記やジャンルの整理など、市民が活用しやすい内容になるよう整理します。
- 公民館では、高等教育機関や社会教育関係団体など、高い専門性や各団体が持つ幅広い分野でのノウハウを生かした多様な講座を継続して実施していきます。
- 中央図書館では、多くのボランティアと協働し、毎月の読み聞かせや各種イベント、視覚障がい者に対する音訳サービスや新聞の整理等、図書館事業を行ってきましたが、今後もボランティアの協力はなくてはならないものと考えています。今後においても「やりがい」を持っていたくれるよう連携を深めていきます。

社会教育 基本目標 3 地域における学びの循環

【成果目標 3】市民が、学びの成果を地域づくりに生かしたり、学校、家庭、地域が連携・協働し、つながりを深めながら学び合えたりすることができるよう、地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させる。

I 活動指標及び成果指標の状況

1 施設等の利用者及び事業参加者について

活動指標 1			目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
シニア世代の知識や経験を伝える世代間交流の実施回数		公民館事業課	28 回	33 回	達成	—
高齢者が参加する世代間交流事業の実施回数(回) 						
活動指標 2			目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
ボランティアと連携して実施する事業の回数	文化振興課	—	—	1 回	—	—
	クリスタルホール	—	—	5 回	—	—
	公民館事業課	430 回	487 回	達成	—	
	中央図書館*1	1,677 人	1,142 人	未達成	◇	
	科学館	—	36 回	—	—	
	博物館	5 回	3 回	未達成	◇	
公民館事業課		ボランティア等との連携で実施する事業回数(回) 				
中央図書館		子ども読書推進ボランティアの行事参加者数(人) 				
博物館		退職校長会ボランティアとの連携で実施する事業回数(回) 				
・文化振興課：井上靖記念館における「井上靖ナナカマドの会」の研修会の開催回数 ・クリスタルホール：コンサートボランティア活動回数 ・科学館：サイエンスボランティア旭川自主事業の開催回数						
活動指標 3			目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
生涯学習団体やボランティア団体等への登録者数	社会教育課	—	—	33 件	—	—
	彫刻美術館	—	—	115 人	—	—
	科学館	—	—	98 人	—	—
・社会教育課：あさひかわ学びの応援講座の登録民間講師及び団体数 ・彫刻美術館：彫刻サポート隊及びボランティアの会「みゅうず」の会員数 ・科学館：サイエンスボランティア旭川登録者数						

*1 R 2, 3 は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から調査未実施

活動指標 4		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
学習した成果を生かす場や機会が充実していると感じる参加者の割合	社会教育課	—	90.0%	—	—
	クリスタルホール	—	70.0%	—	—
	公民館事業課	—	86.4%	—	—
	中央図書館	—	94.0%	—	—
	科学館	—	90.6%	—	—
・社会教育課：旭川市生涯学習フェアまなびピアあさひかわ企画者へのアンケート調査の結果 ・クリスタルホール：コンサートボランティアへのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果 ・中央図書館：ボランティアへのアンケート調査の結果 ・科学館：サイエンスボランティア旭川会員へのアンケート調査の結果					
活動指標 5		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
地域の人材を生かした事業の回数	社会教育課	—	5 回	—	—
・社会教育課：ジオパーク構想推進事業における地域の人材を活用した事業の回数					
活動指標 6		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
地域の人材を活用した事業を行っていると感じた参加者の割合	社会教育課	—	調査未実施	—	—
・地域の人材を活用したジオパーク構想推進事業参加者へのアンケート調査の結果					
活動指標 7		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
学校、地域、家庭と連携して実施した事業の参加者数	社会教育課*1	1,600 回	18 回	未達成	▲
	公民館事業課	21,455 人	6,010 人	未達成	▲
社会教育課 公民館事業課 					
活動指標 8		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
学校、家庭、地域が連携・協働し、つながりを深めながら学び合える環境を整備していると感じる参加者の割合	社会教育課	—	85.7%	—	—
	公民館事業課	—	調査未実施	—	—
・社会教育課：地域学校協働活動に係わった団体へのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果					

参加者・利用者の意識

成果指標 1		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
事業への参加を通じて新たな人とのつながりができた人の割合	社会教育課	—	80.0%	—	—
	公民館事業課	73.1%	50.5%	未達成	▲
	科学館	—	75.0%	—	—
	全体	—	68.5%	—	—
公民館事業課 					
・社会教育課：事業等の参加者等へのアンケート調査の結果 ・科学館：サイエンスボランティア旭川へのアンケート調査の結果					

*1 R 2, 3 は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から調査未実施

成果指標 2		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
学んだことを地域や他の人のために生かそうとしている参加者の割合	社会教育課	—	85.0%	—	—
	文化振興課	—	調査未実施	—	—
	彫刻美術館	—	調査未実施	—	—
	クリスタルホール	—	50.0%	—	—
	公民館事業課	—	66.7%	—	—
	中央図書館	—	100.0%	—	—
	科学館	—	84.3%	—	—
	全体		77.2%		
・社会教育課：事業等の参加者等へのアンケート調査の結果 ・文化振興課：補助金交付団体への聞き取り又は書面提出による確認及び井上靖記念館における「井上靖ナナカマドの会」会員へのアンケート調査の結果 ・彫刻美術館：学んだことを地域や他の人のために生かそうとしている参加者の割合 ・クリスタルホール：コンサートボランティアへのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果 ・中央図書館：図書館ボランティアへのアンケート調査の結果 ・科学館：サイエンスボランティア旭川会員へのアンケート調査の結果					

2 市民の意識について*1

活動指標 9		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
学習した成果を生かす場や機会が充実していると感じる市民の割合	市政モニター	—	15.1%	—
活動指標 10		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
地域の人材を活用した事業を行っていると感じる市民の割合	市政モニター	—	21.4%	—
活動指標 11		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
学校、家庭、地域が連携・協働し、つながりを深めながら学び合える環境を整備していると感じる市民の割合	市政モニター	—	22.6%	—
活動指標 12		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
生涯を通じた学びの振興に満足している市民の割合	市民アンケート	16.6%	15.2%	▲

市民の意識・行動

成果指標 3		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
学習活動を通じて身に付けた知識・技術や経験を地域や他の人のために生かしている市民の割合	市政モニター	—	37.1%	—
成果指標 4		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
ボランティア活動に今後参加したいと思っている市民の割合	市政モニター	—	74.2%	—
成果指標 5		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
地域のイベントや行事、活動に主催者や企画する側で参加した市民の割合	市民アンケート	9.4%	8.8%	▲

*1 市民アンケートは隔年実施（前回は令和3年度実施）

Ⅱ 取組の状況

【基本施策３－１ 地域における教育力の向上】

主な取組３－１－１ 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備

１ 市民の知識・技術を生かした活動の場の提供

- ・社会教育課では、「まなびネットあさひかわ」や「あさひかわ学びの応援講座」において、民間の講師や生涯学習団体等が主催する様々な講座や催しの情報を提供しました。
また、生涯学習フェアでは、20団体が参画し、団体間で話し合いを重ね、企画や当日の運営を行いました。事業後アンケートでは、生涯学習フェアが、「学習成果を生かす機会になった」と回答した団体は約90%で、「この経験を生かし、今後も地域の行事等に関わりたい」と回答した団体は約75%であり、参画団体の主体性を発揮することができました。
- ・井上靖記念館は、市民によって組織されたNPO法人を指定管理者としており、令和5年度は4回の企画展を開催して、前年度比586人増となる3,386人の入館者を数え、市民の知識や見識が施設運営に生かされました。
- ・彫刻美術館では、市民ボランティアである彫刻サポート隊への研修会のほか、市内中学校や公民館のシニア大学が行った野外彫刻の清掃に対して支援を行いました。
- ・公民館では、社会福祉協議会やボランティア活動実践者を講師として、ボランティアに係る講座を実施し、これまでの経験等を踏まえたボランティアに関する情報提供などを通じ、ボランティア活動の機会創出を図りました。
- ・図書館では、来館者アンケートにおいて、「学習した成果を図書館で活かすことができそうだ」と回答した方は99%、「新しい人とのつながりができた」「これまで培った知見を生かす場として図書館が機能している」と感じた方は100%と高い割合を示しており、市民の学習成果を還元する環境や活動の機会を提供することができました。
- ・科学館では、開館以来、科学のおもしろさや学ぶ楽しさを子どもたちに伝えたいという市民による団体「サイエンスボランティア旭川」と協働で科学の普及活動をしており、一年を通して科学館事業のサポートや自主事業の実施など様々な活動の場を提供しています。会員からは「やりがいを感じている」「来館者や参加者との交流を楽しんでいる」「活動の場があるのはありがたい」といった声が寄せられているほか、意見交換や情報提供を定期的に行うことで、良好な協働関係を継続することができました。

２ 学習成果を生かしたボランティア活動の促進

- ・社会教育課では、地域学校協働活動として、地域住民にクラブ活動の講師を依頼し、自然観察や郷土芸能である獅子舞、パラスポーツのボッチャ体験など、地域住民の知識や技術を児童に伝える機会をコーディネートしました。
- ・井上靖記念館では、ボランティア参加者が講師を務める市民を対象とした朗読会を7回開催し、延べ82名が参加するなど、ボランティア活動での学習成果を生かす取組を進めました。
- ・彫刻美術館では、市民ボランティアの彫刻サポート隊による定期的な清掃やワックスの塗布などにより、野外彫刻作品を良好に維持管理することができました。
- ・クリスタルホールでは、鑑賞型自主文化事業の3事業について、市民ボランティアのコンサートボランティアと連携して実施しました。また、音楽堂を利用する市民団体等の希望に応じて、コンサートボランティアの派遣を行い、音楽を愛好する市民がコンサート運営に携わることのできる機会を設けました。
- ・公民館の百寿大学やシニア大学では、ごみ拾いや彫刻清掃のボランティアに参加する機会を設け、延べ200人が参加しました。
- ・科学館では、「サイエンスボランティア旭川」が開催しているワークショップや「学生の科学展」等のイベントを支援することで、科学のおもしろさや学ぶ楽しさを伝えました。

- ・博物館では、退職校長会旭川支部の有志による博物館ボランティアと連携し、活動内容をともに検討しながら、同ボランティアの協力を得て博物館資料の整理を行ったほか、「アイヌ文化に親しむ日」での体験メニューや「冬の体験ワークショップ」を実施しました。

主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援

1 社会教育関係団体の育成支援

- ・社会教育課では、各種補助金を活用した事業について、参加者の学びが深まるような内容となるよう助言しました。また、コロナ禍の影響により令和2年度から休止していた交流スクールについて、地域や学校の理解が得られたところから順次活動を再開するよう調整しました。
- ・文化振興課では、文化芸術活動を実施する14団体への補助を行いました。事業後アンケートでは、14団体中12団体が「事業規模の拡大が図られる」と回答しており、市民の自主的な文化芸術活動を支援することにより、多くの市民に文化芸術に触れる機会を提供することができました。
- ・公民館では、生涯学習活動団体に公民館が実施する講座の講師を依頼するなど、各団体が学んだ成果を生かす機会を設け、団体の活動を支援しました。

2 指導者の育成支援に向けた取組の充実

- ・社会教育課では、20歳を迎える若人の門出を祝うとともに、今後社会で力強く生きていくよう激励する「20歳を祝うつどい」を、つどいの対象者を中心とした実行委員会との共催により開催しています。令和5年度は、オブザーバーとして参加した前年度の委員を含む11名の実行委員の活動を支援しました。
ジオパーク構想推進事業では、各種事業に高校生や大学生が運営ボランティアとして関わり、知識等を生かし活躍できる機会を創出することができました。
- ・公民館のシニア大学では、学生が地域課題について研究した成果を、百寿大学で講師として発表する機会を設け、学んだ成果を生かす場を提供しました。

【基本施策 3-2 学校、家庭、地域の連携・協働の推進】

主な取組 3-2-1 学校、家庭、地域の連携・協働によるつながり、学び合える環境の整備

1 多様な体験活動の提供

- ・社会教育課では、地域学校協働活動のモデル地域の学校を対象に実施したアンケートにおいて、約71%の学校が、地域コーディネーターの関わりにより「多様な体験の提供ができた」と回答しており、児童生徒の体験の機会をつくることができました。
- ・公民館では、地域の特色を生かした自然スポットの散策や地域住民・公民館利用団体が講師となった農業体験、木工教室の実施など、様々な知識や経験を身に付けるための講座を実施しました。

2 多様な世代との交流によるつながりを深め、学び合える場の提供

- ・社会教育課では、地域学校協働活動のモデル地域の学校を対象に実施したアンケートにおいて、全ての学校が、子どもたちと地域住民、学校職員と地域住民のつながりが深まったと回答しており、学校と地域の協働を推進することができました。
- ・公民館では、百寿大学の学生が昔遊びを教える講師として小学校の授業に参加し、地域の子どもたちと交流しました。

3 地域学校協働活動の推進

- ・社会教育課では、地域学校協働活動のモデル地域の学校を対象に実施したアンケートにおいて、全ての学校が「学校と地域のつながりが深まった」「地域の活性化につながった」と感じているほか、約86%の学校が「子どもたちの地域への理解・関心が高まった」と答えており、モデル

地域において、学校と地域の協働を推進することができました。

Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

地域社会の人間関係の希薄化や人々の孤立化が指摘されている中で、地域課題の解決や地域の活性化などを促進するため、知識や技術を持つ地域の人材を活用し、学習成果を地域に還元するための環境づくりや、家庭・地域・学校の連携・協働の促進を図ります。

《基本目標３ 地域における学びの循環》

事業後に参加者に行ったアンケートでは、「事業への参加を通じて新たな人とのつながりができた人の割合」が約６９％、「学んだことや地域の人のために生かそうとしている参加者の割合」が約７７％であり、人や地域のつながりを深め、学習成果の還元につながるような学びの提供ができていると考えられます。

一方、市政モニターアンケートでは、「学校、家庭、地域が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備していると感じる市民の割合」は約２３％、「学習活動を通じて身に付けた知識・技術や経験を地域や他の人のために生かしている市民の割合」は約３７％と、低い割合となっています。

また、「学習した成果を生かす場や機会が充実していると感じる市民の割合」は約１５％、「地域の人材を活用した事業を行っていると感じる市民の割合」は約２１％となっており、生涯学習の取組については十分とは言えない結果となっています。

市政モニターアンケートにおいて、約７４％の市民が、「ボランティア活動に今後参加したいと思っている」と答えていることから、今後は既存のボランティアだけでなく、多くの市民が地域の担い手として活躍できるよう、身に付けた知識、技術や経験を生かす場や機会を提供していきます。

＜３－１－１ 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備＞

○ 社会教育課では、「まなびネットあさひかわ」に登録している団体・サークル、講師・指導者数が、横ばいの状況が続いていることから、登録数の増加を目指すため、サイトの周知に努めるとともに、地域で活動している団体や人材を発掘し、地域の教育力の向上につなげます。

生涯学習フェアについては、令和６年度から出展団体による実行委員会が主催となって企画・運営を行います。企画・運営の経験を通して、学びの成果を地域に還元する人材育成に取り組みます。令和５年度に生涯学習フェアに参画した団体の約７０％が「新たなつながりを持つことができた」、約７５％が「今後も地域等の行事等に関わりたい」と回答しており、人と人とのつながりを持ちながら、学んだことを地域や他の人のために生かそうとする意識の向上につながったと考えています。生涯学習フェアに関わる団体を増やし、経験のある団体から新たな団体へと学びがつながるよう取り組みます。

「あさひかわ学びの応援講座」は、まなびネットあさひかわとの連携や民間団体への周知を強化して掲載講座数を増やし、民間講師の活躍の場を広げられるよう努めます。

また、地域学校協働活動では、今後も協働活動の更なる推進を目指すとともに、地域の人材や協力団体等のリスト化を進めます。

○ 井上靖記念館では、ＮＰＯ法人が指定管理者となることやボランティア団体との共催事業を実施することで、市民及びボランティアの知識や経験を生かした施設運営を行っており、今後も関係団体と協力しながら取組を続けていきます。

○ 彫刻美術館のボランティア団体である彫刻サポート隊は、各区域ごとに活動しており、情報共有の場が少ないことから、情報共有を含め活動の充実・知識向上を図るため、令和５年度に実施した研修会を今後も継続して開催し、ボランティア活動を支援します。

また、彫刻サポート隊への加入者数の鈍化が見られるため、各種媒体を利用した広報を拡充し、加入者が増えるよう努めるとともに、彫刻サポート隊の主体的な取組を促進し、より一層充実した活動ができるようサポートを行います。

○ 公民館では、引き続きボランティアに関する講座の実施や百寿大学・シニア大学の中でボラン

ティアに関する情報提供を行い、ボランティアの経験を生かしてもらう機会の創出に取り組みます。

- 図書館では、来館者アンケートにおいて、ボランティア支援に関してはおおむね好意的な回答でしたが、ボランティアの高齢化が進んでおり、新たな担い手の確保が必要です。ボランティアの確保について、図書館事業参加への魅力向上も含め、有意義な活動になるよう支援していきます。
- 科学館では、近年は「サイエンスボランティア旭川」の会員の高齢化などを要因とする活動人数の減少が顕著となってきた傾向にあり、新たなボランティア活動希望者の掘り起こしが必要となっています。今後も活動機会の提供を継続するとともに、「サイエンスボランティア旭川」に限らず、科学館での活動を希望するボランティア組織も事業連携の相手方として支援の幅を広げてまいります。
- 博物館の業務は専門的な知識が必要なものが多く、ボランティア活動で実施することが難しい面もありますが、ボランティア参加者とともに検討し、活動内容を充実させていきます。

＜3－1－2 地域社会を担う団体や人材の育成支援＞

- 社会教育課では、各種補助金を活用した事業について、引き続きより多くの方が学びを深められる内容となるよう助言を行うとともに、社会教育団体が集まる場において補助金制度の周知を図ります。
交流スクールについては、学校と地域がつながる場として積極的に利用されるよう、交流スクール運営委員会と連携しながら事業を進めます。
20歳を祝うつどいについては、実行委員の担い手として、大学生や様々な業種の社会人等幅広い人材を確保し、開催に向けた活動を支援していきます。
また、ジオパーク構想推進事業では、関係団体や大学生が講師等を担ったり、市民が地球科学や地域の自然について考える機会となる事業を実施していきます。
- 文化振興課では、文化芸術の裾野を広げるため、文化芸術活動を行う様々な団体が補助金を活用できるよう、補助制度の周知に努めます。
- 公民館のシニア大学は、まちづくりを担う人材づくりを目的としていることから、引き続きアンケート等で卒業後の活動状況を調査し、適宜カリキュラムの見直しを図っていきます。

＜3－2－1 学校、家庭、地域の連携・協働によるつながり、学び合える環境の整備＞

- 社会教育課では、地域学校協働活動において、令和6年度に新たなモデル地域を設定し、既存のモデル地域の成果と課題を踏まえ、各地域の現状にあった取組を推進します。また、交流スクールについては、各交流スクールの運営委員会が自主運営していますが、地域と学校がつながる場所となるよう、引き続き支援していきます。
- 公民館では、地域のニーズを把握できるよう、関係団体や学校との連携を密にし、それぞれの地域が連携して行う子どもたちのための活動を引き続き支援していきます。

社会教育 基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

【成果目標 4】市民が、日頃から文化芸術に触れ、心豊かな生活を送ることができるよう、気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。

I 活動指標及び成果指標の状況

活動指標 1		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
文化芸術に関する事業の入場者数	文化振興課	—	18,752 人	—	—
	彫刻美術館	—	91 人	—	—
	文化会館	3,208 人	2,959 人	未達成	↘
	クリスタルホール	3,308 人	1,980 人	未達成	↘
	公民館事業課	20,286 人	23,617 人	達成	—
	中央図書館	1,718 人	838 人	未達成	↘
文化会館 文化会館自主文化事業への参加者数(人) クリスタルホール クリスタルホール自主文化事業の入場者数(人) 公民館事業課 公民館まつり、木楽輪コンサート 及び木楽輪グランドピアノ開放利用者数(人) 中央図書館 図書館まつりの参加者数(人)【再掲】					
- 文化振興課：所管施設（井上靖記念館、旭川市民ギャラリー、織田コレクション展示、旭川文学資料館）の来場者数 - 彫刻美術館：中原悌二郎賞に係る講演会等の参加者数					
活動指標 2		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
市民が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めていると感じる利用者の割合	文化振興課	—	調査未実施	—	—
	彫刻美術館	—	調査未実施	—	—
	文化会館	—	71.0%	—	—
	クリスタルホール	—	86.3%	—	—
	公民館事業課	—	75.0%	—	—
	中央図書館	—	99.0%	—	—
- 文化振興課：所管施設（井上靖記念館、旭川市民ギャラリー、織田コレクション展示）の利用者へのアンケート調査の結果 - 彫刻美術館：観覧者及び事業参加者（彫刻美術館、ステーションギャラリー、中原悌二郎賞、旭川彫刻フェスタ）へのアンケート調査の結果 - 文化会館：文化会館利用者へのアンケート調査の結果 - クリスタルホール：クリスタルホール利用者へのアンケート調査の結果 - 公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果 - 中央図書館：図書館利用者へのアンケート調査の結果					

活動指標 3		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
自主文化事業への参加者の満足度	文化会館*1	94.7%	98.7%	達成	—
	クリスタルホール	88.1%	81.8%	未達成	▲
文化会館		クリスタルホール			
自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果 (とても良かった・良かった)(%)		自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果 (とても良かった・良かった)(%)			
活動指標 4		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
関連施設を更に活用する手立てを講じていると 感じる利用者の割合	彫刻美術館	—	調査未実施	—	—
	公民館事業課	—	調査未実施	—	—
・ 彫刻美術館：彫刻美術館利用者へのアンケート調査の結果 ・ 公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果					
活動指標 5		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数	文化振興課	4 団体	5 団体	達成	—
活動指標 6		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
文化芸術活動に係る成果発表の場を活用する 団体数	文化振興課	—	43 団体	—	—
	クリスタルホール*2	7 団体	10 団体	達成	—
クリスタルホール					
・ 文化振興課：リハーサルホール及び旭川市民ギャラリーの年間利用者					
活動指標 7		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
文化芸術活動に関わる学びの機会の提供回数 や参加者数	文化振興課	—	803 回	—	—
	文化会館	—	582 人	—	—
	公民館事業課	20,286 人	23,617 人	達成	—
公民館事業課					
・ 文化振興課：リハーサルホール利用回数 ・ 文化会館：文化会館自主文化事業（ワークショップ等）の参加者数					

*1 R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアンケート調査未実施

*2 R元は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

活動指標 8		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
文化芸術団体等への支援が充実していると感じる利用者の割合	文化振興課	—	調査未実施	—	—
	文化会館	—	62.0%	—	—
	クリスタルホール	—	80.4%	—	—
	公民館事業課	—	83.3%	—	—
・文化振興課：リハーサルホール及び旭川市民ギャラリー利用者へのアンケート調査の結果 ・文化会館：文化会館自主文化事業（ワークショップ等）の参加者へのアンケート調査の結果 ・クリスタルホール：クリスタルホール利用者へのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果					

参加者・利用者の意識

成果指標 1		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
今後も、日頃から文化や芸術に触れようとしている利用者の割合	文化振興課	—	64.3%	—	—
	文化会館	—	75.0%	—	—
	クリスタルホール	—	88.5%	—	—
	中央図書館	—	99.0%	—	—
	公民館事業課	—	調査未実施	—	—
	全体	—	81.7%	—	—
・文化振興課：所管施設（井上靖記念館、旭川市民ギャラリー、織田コレクション展示）の利用者へのアンケート調査の結果 ・文化会館：文化会館自主文化事業（ワークショップ等）の参加者へのアンケート調査の結果 ・クリスタルホール：クリスタルホール利用者へのアンケート調査の結果 ・中央図書館：図書館利用者へのアンケート調査の結果 ・公民館事業課：公民館利用者へのアンケート調査の結果					

2 市民の意識について

活動指標 9		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
市民が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めていると感じる市民の割合	市政モニター	—	47.2%	—
活動指標 10		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
旭川市を文化・文化芸術活動が盛んなまちだと思う市民の割合	市民アンケート	25.9%	27.1%	↗
活動指標 11		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
文化芸術活動を鑑賞する機会が少ないと感じている市民の割合	市民アンケート	13.7%	13.2%	↘
活動指標 12		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
文化芸術活動についての情報が少ないと感じている市民の割合	市民アンケート	14.5%	13.5%	↘
活動指標 13		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
関連施設を更に活用する手立てを講じていると感じる市民の割合	市政モニター	—	32.1%	—
活動指標 14		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
文化芸術団体等への支援が充実していると感じる市民の割合	市政モニター	—	28.9%	—
活動指標 15		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
個性豊かな北国らしい文化の振興に満足している市民の割合	市民アンケート	21.6%	19.8%	↘

成果指標 2		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
日頃から、文化や芸術に触れている市民の割合	市政モニター	—	40.3%	—

Ⅱ 取組の状況

【基本施策 4－1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実】

主な取組 4－1－1 文化芸術に親しむ機会の充実

1 文化芸術に接する機会の充実

- ・文化振興課が所管する旭川市民ギャラリーでは、利用団体数が 33 から 41 へ増加し、来場者数も前年比 761 人の増となる 10,682 人となるなど、市民等が文化芸術に接する機会の充実を図ることができました。
- ・彫刻美術館では、第 43 回中原悌二郎賞贈呈式及び中原悌二郎賞関連企画展における受賞者ギャラリートークを行い、中原悌二郎賞の周知と本市の芸術文化に接する機会の充実に努めました。
- ・文化会館では、クラシックバレエや宝くじまちの音楽会の公演等を実施し、市民に優れた文化芸術作品を鑑賞する機会を提供しました。
- ・クリスタルホールでは、3つの鑑賞型自主文化事業を実施し、事業後アンケートでは回答者の約 82% が「とても良かった」と回答しており、満足度の高い公演を実施することができました。
- ・図書館では、図書館まつりを 3 日間にわたって開催し、おはなし会や図書館発見ツアー、自動車文庫開放やキッズコンサート等を開催しました。事業後アンケートでは、回答者の約 99% から「次日も図書館まつりに参加したいと思う・少し思う」の回答を得ることができ、本に接する機会の充実を図ることができました。
- ・公民館では、百寿大学・シニア大学の講座など各公民館の事業において、音楽に関わる講座や陶芸教室、市内文化施設の見学会などを通じ、文化芸術に接する機会の充実に努めました。また、神楽公民館の木楽輪ではアマチュア演奏家等による「夢コンサート」を開催し、多くの市民が来場しました。

2 文化芸術への関心を高める取組の充実

- ・文化振興課が所管する井上靖記念館では、3回の企画展と 9 回の朗読会などを実施し、井上靖作品をはじめとする文学への関心を高めることに取り組みました。
- ・彫刻美術館では、各種事業を通じて彫刻への理解を深め美術全般への関心を高める機会を提供しました。また、各事業の講師に意見を聞き、工夫を凝らすなど内容の充実に努めました。
- ・文化会館の自主文化事業では、地域で鑑賞する機会の少ないクラシックバレエと、出演者の知名度や人気に比べ廉価な価格設定とした音楽会を実施しました。
- ・クリスタルホールでは、来館者アンケートを参考に自主文化事業の選定を行い、独自で作成している情報誌や市民広報誌、ホームページのほか、新聞広告やラジオ、各種 SNS により周知し、文化芸術への関心を高めました。
- ・公民館事業課では、各公民館の事業や百寿大学・シニア大学の講座において、音楽に関わる講座や陶芸教室、市内文化施設の見学会などを実施し、文化芸術に親しむ機会を創出しました。

3 関連施設の機能を生かした文化芸術活動の推進

- ・文化振興課が所管する文学資料館では、東鷹栖公民館と同館で活動する安部公房の会からの協力を得て没後 30 年を記念したミニ展示と朗読会を開催しました。
- ・彫刻美術館は彫刻専門の美術館として、ステーションギャラリーは「小浜亀角のアイヌ画」展など彫刻のみならず幅広い文化芸術の発信拠点として、それぞれ異なる活用を図りました。

1 文化芸術に関わる団体への支援や人材の育成

- ・文化振興課では、市民による文化芸術活動の発表や活動の場としてリハーサルホールと市民ギャラリーを所管しており、令和5年度はそれぞれ803回と41回の団体及び個人の利用がありました。また、公募により14の文化芸術関係団体が実施する発表会や演奏会、展覧会等の事業に必要な経費の一部を補助し、文化芸術に関わる団体を支援しました。
- ・文化会館では、高校生のための舞台技術講習会等を開催し、実践的な演劇の技術等を学ぶ機会を提供したほか、39歳以下の作家を対象に様々なジャンルの作品を公募する展示会「ACAG」を開催し、70名、104点の作品を展示しました。また、市民等が取り組む絵画や写真、書道などの発表機会として展示室を提供し、文化芸術に関わる団体の活動を支援しました。
- ・クリスタルホールでは、文化芸術活動に関わる団体と協働で「ウインターコンサート」を開催したほか、「開館30周年記念アニバーサリーコンサート」や「冬休み子ども音楽講座」、子どもを対象とした音楽堂でグランドピアノを体験できる「あなたにエール♪」を開催し、音楽に関わる人材の育成を行いました。
- ・公民館では、館内ロビー等を、絵画や俳句で活動する生涯学習活動団体をはじめ、地域の中学校美術部等の作品展示会場として提供することで、団体の活動を支援しました。

2 関係団体等と連携した文化芸術活動の推進

- ・公民館では、「公民館まつり」等のイベントを生涯学習活動団体等と連携して企画・運営し、地域の文化芸術活動を支援しました。

Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

旭川市は、彫刻のまち、文学のまち、音楽のまち等と称されるなど、文化芸術活動が盛んなまちであり、様々な文化イベント等を行っています。

文化芸術は、人々の創造性を高め、感性を豊かにし、暮らしに潤いと安らぎをもたらすとともに、人々に感動と生きる力を与えるものです。関連施設の活用を図りながら、本市の特徴を生かした文化の振興を通じて、市民一人一人が主体的に文化芸術に接することができ、心豊かな生活を送ることができるよう、文化芸術活動の充実を図ります。

《基本目標4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実》

「補助金の新規交付団体数」や「文化芸術活動に係る成果発表の場を活用する団体数」はいずれも目標値を達成していますが、利用者等へのアンケート及び市政モニターアンケートにおいて、「市民が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めている」と回答した利用者等は約83%、市政モニターは約47%、「文化芸術団体等への支援が充実していると感じる」と回答した利用者等は約75%、市政モニターは約29%となっており、いずれも市政モニターの割合が低く、団体支援の取組については十分とは言えない結果となっています。

今後は、市民が気軽に文化芸術に触れられるようなものから、深く学びたい方を対象としたものまで、様々な内容やアウトリーチ型の取組を検討するほか、補助金や文化芸術活動に利用できる場の周知、活動団体の紹介など文化芸術活動の充実に取り組みます。

＜4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実＞

- 市民ギャラリーと井上靖記念館の来館者数、織田コレクション展示の観覧者数はいずれも令和4年度から増加しており、引き続き、各施設運営や委託先の事業者と連携しながら文化芸術に親しむ機会を提供するとともに、文化芸術活動に接する機会の拡充と文化芸術活動が行われる環境の維持に取り組みます。
- 彫刻美術館では、中原悌二郎賞のほか、企画展やギャラリートーク、ワークショップ等を開催し、市民が文化芸術に接する機会の充実を図りながら、より多くの市民に参加してもらえよう

効果的な広報を行います。また、より多くの市民が文化芸術に興味を持てるよう外部機関との連携や、ステーションギャラリーと連動した企画展を開催し、市民が文化芸術に親しむ機会を提供します。

- 文化会館で実施した自主文化事業では、アンケート回答者の約99%が高い満足度を示しており、今後も魅力ある公演を実施するために、市民が参加しやすい価格設定とするための補助金等の財源確保や公演事業の誘致により、市民の鑑賞機会の創出に取り組みます。
- クリスタルホールの入場者数については、更に増やす余地があるため、今後もアンケート結果を踏まえた質の高い公演を企画するとともに、文化芸術への関心を高められるよう、きめ細かな周知に努め、より多くの市民が優れた音楽芸術に触れられる機会を創出します。
また、音楽芸術の拠点施設としての大雪クリスタルホールについても周知を行います。
- 公民館では、今後も館内での展示・発表を行える環境づくりを継続し、多彩なジャンルの文化芸術に気軽に触れることができる機会の充実を図ります。
特に、木楽輪での「夢コンサート」は、例年、出演希望者・観覧者ともに多いことから、夢コンサート及びグランドピアノの開放を継続実施し、アマチュア演奏家の活動の場と市民が気軽に音楽や文化・芸術に触れることができる機会を引き続き提供していきます。
- 図書館では、図書館まつりのほか展示や特集コーナーを設け、人と本をつなげる工夫を行いました。JICA活動紹介パネル展では、実際の写真と本からにより国際協力が分かりやすく利用者に伝わりました。今後も本と人を結びつける読書啓発を行っていきます。

＜4-1-2 文化芸術活動への支援＞

- 文化振興課では、引き続き、リハーサルホールや市民ギャラリーを文化芸術活動の場として提供していくとともに、補助などにより団体の活動を支援していきます。
また、リハーサルホールや市民ギャラリーなど各施設の運営負担金や文化芸術団体への補助の財源として文化芸術振興基金を活用していることから、ホームページ等による基金への寄附の呼びかけに一層取り組みます。
- 文化会館では、ホール設備を活用し技術者から実践的な演劇技術を学ぶ機会である舞台技術講習会を、引き続き実施していきます。
ACAGについては、文化芸術活動への興味や関心を若い世代から高める取組の充実が必要であることから、事業内容を検討し、引き続き、若手作家が日頃の活動成果を発表する機会となるよう取り組みます。
- クリスタルホールでは、事業内容の検討を行い、文化芸術活動への興味や関心を高める取組を充実させていきます。また、より多くの市民に関心を持ってもらえるよう、市民広報誌やマスメディア等の広報媒体を活用した周知を充実させるとともに、子ども向けの事業については、学校との連携などにより周知を行います。
- 公民館では、公民館まつりなどで生涯学習活動団体の活動発表の場や団体間の連携の機会を提供していますが、団体構成員の高齢化が進んでおり、より多くの団体に主体的に関わってもらえるような働きかけを工夫するとともに、公民館講座の講師になってもらうなど、活動成果を地域に還元し活動にやりがいを感じてもらえるよう取り組みます。

社会教育 基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

【成果目標 5】市民が、地域を知り、郷土への愛着を深めることができるよう、アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信するとともに、その保存・活用に努め、次代へ引き継ぐ。

I 活動指標及び成果指標の状況

活動指標 1			目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
郷土の文化や歴史に関する保存資料数	中央図書館		76,800 点	73,866 点	未達成	↘
	博物館		2,516 点	2,756 点	達成	—

中央図書館

中央図書館郷土資料の所蔵点数(点)

年度	目標値	実績値
H27	76,800	73,866
H28	77,000	74,000
H29	77,500	74,500
H30	78,000	75,000
R元	78,500	75,500
R2	79,000	76,000
R3	79,500	76,500
R4	80,000	77,000
R5	80,000	77,500

博物館

民族資料整理に伴い出版する目録への掲載点数(点)

年度	目標値	実績値
H27	2,516	2,400
H28	2,550	2,450
H29	2,600	2,500
H30	2,650	2,550
R元	2,700	2,600
R2	2,750	2,650
R3	2,800	2,700
R4	2,850	2,750
R5	2,900	2,800

活動指標 2			目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
アイヌ文化に関する事業への参加者数	文化振興課		—	未実施	—	—
博物館*1		3,072 人	2,224 人	未達成	↘	

博物館

アイヌ文化ふれあいまつり及びアイヌ文化に親しむ日の参加者数(人)

年度	目標値	実績値
H27	3,072	2,224
H28	3,100	2,300
H29	3,200	2,400
H30	3,300	2,500
R元	3,400	2,600
R2	3,500	2,700
R3	3,600	2,800
R4	3,700	2,900
R5	3,800	3,000

・文化振興課：アイヌ文化関連事業への参加者数

活動指標 3			目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等を保存・活用していると感じる利用者の割合	文化振興課		—	調査未実施	—	—
中央図書館		—	94.0%	—	—	

・文化振興課：文化財来訪者及びアイヌ文化関連事業参加者へのアンケート調査の結果

・中央図書館：図書館利用者へのアンケート調査の結果

活動指標 4			目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
郷土の文化を知る取組への参加者数	社会教育課		—	3,778 人	—	—
文化振興課		—	8 人	—	—	
彫刻美術館*2		1,317 人	520 人	未達成	↘	
彫刻美術館*3		—	未実施	—	—	
博物館*4		1,634 人	713 人	未達成	↘	
博物館*5		—	11,218 人	—	—	

彫刻美術館

彫刻巡回展示出前授業参加児童生徒数(人)

年度	目標値	実績値
H27	1,317	1,000
H28	1,350	1,100
H29	1,400	1,200
H30	1,450	1,300
R元	1,500	1,400
R2	1,550	1,500
R3	1,600	1,600
R4	1,650	1,700
R5	1,700	1,800

博物館

博物館講座等教育普及事業
(企画展・アイヌ文化関連事業を除く)の参加者数(人)

年度	目標値	実績値
H27	1,634	1,200
H28	1,650	1,300
H29	1,700	1,400
H30	1,750	1,500
R元	1,800	1,600
R2	1,850	1,700
R3	1,900	1,800
R4	1,950	1,900
R5	2,000	2,000

・社会教育課：ジオパーク構想推進事業参加者数

・文化振興課：旭川市文化賞贈呈事業における受賞候補推薦数

*1 H29は台風、R2～R4は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアイヌ文化ふれあいまつりが中止となったため、アイヌ文化に親しむ日のみの参加者数

*2 彫刻巡回展示出前授業の参加児童生徒数。R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

*3 彫刻散歩の参加者数。

*4 博物館講座等教育普及事業(企画展・アイヌ文化関連事業を除く)の参加者数

*5 アイヌ文化ふれあいまつり及び博物館企画展の参加者数

活動指標 5		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化に関する講座等への参加者の満足度	博物館	81.1%	89.6%	達成	—
教育普及事業参加者に対するアンケート調査の結果 (満足・まあまあ良いの割合)(%)					
活動指標 6		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
チラシやSNSなどで、郷土の文化や文化財等の魅力を発信した回数	文化振興課	—	6回	—	—
・展示チラシの設置回数及びSNS投稿回数(井上靖記念館, 所蔵絵画展)					
活動指標 7		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信していると感じる利用者の割合	社会教育課	—	調査未実施	—	—
	文化振興課	—	調査未実施	—	—
	彫刻美術館	—	調査未実施	—	—
・社会教育課：ジオパーク構想推進事業の参加者へのアンケート調査の結果 ・文化振興課：井上靖記念館の利用者へのアンケート調査の結果 ・彫刻美術館：彫刻美術館の利用者へのアンケート調査の結果					

参加者・利用者の意識

成果指標 1		目標値 (R5)	実績値 (R5)	達成状況	R4実績値との比較
郷土への愛着が深まった参加者の割合	社会教育課	—	94.0%	—	—
	文化振興課	—	調査未実施	—	—
	彫刻美術館	—	調査未実施	—	—
	中央図書館	—	94.0%	—	—
	博物館	—	90.5%	—	—
	全体	—	92.8%	—	—
・社会教育課：ジオパーク構想推進事業の参加者へのアンケート調査の結果 ・文化振興課：所管施設利用者及び事業参加者へのアンケート調査の結果 ・彫刻美術館：彫刻美術館事業活動の参加者へのアンケート調査の結果 ・中央図書館：図書館利用者へのアンケート調査の結果 ・博物館：事業参加者及び施設利用者へのアンケート調査の結果					

2 市民の意識について

活動指標 8		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等を保存・活用していると感じる市民の割合	市政モニター	—	41.5%	—
活動指標 9		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
歴史的な文化財や街並みが保存されず、活用されていないと感じている市民の割合	市民アンケート	3.0%	2.5%	↗
活動指標 10		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
地域の郷土芸能が保存・継承されていないと感じている市民の割合	市民アンケート	1.3%	2.1%	↗
活動指標 11		実績値 (R4)	実績値 (R5)	R4実績値との比較
地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信していると感じる市民の割合	市政モニター	—	32.7%	—

活動指標 1 2		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
文化芸術活動についての情報が少ないと感じている市民の割合	市民アンケート	14.5%	13.5%	↗
活動指標 1 3		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
個性豊かな北国らしい文化の振興に満足している市民の割合	市民アンケート	21.6%	19.8%	↘

・市民の意識や行動

成果指標 2		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
旭川市に愛着や親しみを感じている市民の割合	市民アンケート	75.2%	77.4%	↗
成果指標 3		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
旭川市を文化・文化芸術活動が盛んなまちだと思う市民の割合	市民アンケート	25.9%	27.1%	↗
成果指標 4		実績値 (R3)	実績値 (R5)	R3実績値との比較
個性豊かな北国らしい文化の振興が重要と感じている市民の割合	市民アンケート	48.3%	46.7%	↘

Ⅱ 取組の状況

【基本施策 5－1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成】

主な取組 5－1－1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用

1 文化財等の適切な保存と継承

- ・文化振興課では、草刈りや清掃などを通して文化財等の環境整備に当たるとともに、梅の木への施肥や病害虫防除、養蚕民家の大梁の補強等を行う冬期養生、旧宮北邸の外壁飛散を防止するネット養生など、修復や養生が必要な文化財等への対処を行うことで、適切な保存と管理に努めました。

2 貴重な文化財等を活用した郷土の歴史を後世に伝える取組の推進

- ・文化振興課では、国の交付金を活用して民間アイヌ施設の整備を支援し、貴重なアイヌの資料を後世へと伝えていくとともに、市民や観光客がそれら資料に接する環境を整えました。
- ・博物館では、地域やアイヌの歴史に関する資料を展示するとともに、アイヌ文化・歴史を紹介する講座やイベントを開催しました。来館者アンケートや事業後アンケートでは、「旭川やアイヌの歴史を知ることができた」との回答を得られ、郷土の歴史を伝えることができました。

3 歴史的資料の収集・保存と整理

- ・文化振興課では、カムイの杜公園に残されていたチセの解体残渣について、アイヌ文化の伝統に基づきカムイノミを実施した上で撤去を行ったほか、知里幸恵の業績に関する関係者の対談記録やアイヌ文化を紹介する小冊子を作成し、アイヌ文化に係る資料整備と紹介に努めました。
- ・中央図書館では、来館者アンケート回答者の約90%が、歴史的資料の保存・活用に関して「役立っている、少し役立っている」と回答しており、適切に歴史的資料を収集・保存できました。
- ・博物館では、地域の歴史や文化に関する資料を収集し、温度と湿度を管理した展示室での展示や収蔵庫での保管を行っており、歴史的資料を適切に収集、保存しました。

1 郷土の文化に接する機会や、郷土を再発見し愛着や誇りを高める取組の充実

- ・社会教育課では、地域の特徴的な自然や文化を題材とした講座やツアーを開催したほか、学校からの依頼により現地のガイドや出前授業を行いました。出前授業では、実際に説明した場所に行ってみたくなったとの意見が寄せられ、郷土への愛着を高める取組を進めることができました。
- ・文化振興課が開催した旭川市文化賞の贈呈式には165名が参加し、郷土で活躍する文化団体や個人の業績について周知・発信を行いました。
- ・彫刻美術館では、建物の適切な維持管理により貴重な重要文化財を保存しており、市民の観覧に供することで、後世へ文化財を継承していくとともに、郷土への愛着や誇りを高めることができました。
- ・公民館では、自然体験やアイヌ文化、三浦綾子等の旭川ゆかりの講座を開催するなど、地域への関心を高める取組を実施しました。
- ・博物館では、常設展示のほか、市内の遺跡から出土した土器やアイヌのゴザを紹介する企画展、ミニ土器作りやアイヌ文様しおり作りなどの体験学習、地域の歴史やアイヌ文化に関する講座やイベントを開催し、郷土の文化に接する機会や再発見する機会を提供しました。来館者アンケートや事業後アンケートでは、回答者の約90%が「旭川やアイヌの歴史や文化について興味をもった」と答えており、郷土への愛着を高めることができました。

2 郷土の文化に関する情報発信の充実と理解の促進

- ・社会教育課では、大雪山カムイミンタラジオパーク構想推進協議会のホームページやSNSで見どころを紹介し、地域の自然や文化を紹介しました。
- ・博物館では、常設展示や、特別展、各種講座、イベントなどの開催のほか、特別展示やイベントに関するSNSでの周知により、地域や旭川の文化に関する情報を発信しました。

Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

活発な文化芸術活動は、地域への愛情と誇りを人々の心に育て、活力ある地域社会の形成に役立つものです。また、先人から受け継いだ歴史と、これまで培われてきた文化を尊重し、次代へ継承するなどの責任を果たすことも重要です。

本市では、郷土愛の育成に取り組むとともに、文化財やアイヌ文化、音楽・彫刻・文学・工芸品などの魅力ある地域資源の保存と更なる活用により、旭川らしさの発信に取り組めます。

〈基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成〉

利用者及び事業参加者に行ったアンケートの「郷土への愛着が深まった参加者の割合」は約93%、市政モニターアンケートの「旭川市に愛着や親しみを感じている市民の割合」は約77%であり、今後も様々な展示や体験などを通して、更なる郷土愛の醸成を目指します。

一方で、市政モニターアンケートにおいて、「地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信していると感じる市民の割合」は約33%、「文化芸術活動についての情報発信が少ないと感じる市民の割合」は約14%であり、情報発信の取組については、十分とは言えない結果となっています。今後は、対象とする年齢層に適した情報発信やSNS等を効果的に活用した情報発信に取り組めます。

＜5－1－1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用＞

○ 文化振興課では、それぞれの文化財等の状況の把握に努めながら、必要な措置を講じていくことで適切な保存を図るほか、民間への貸出や売却等についても検討し、有効活用を努めます。

アイヌ施策の推進では、アイヌ団体との協力体制が必須であることから、関係団体との緊密な連携に努めるとともに、多彩な文化伝承事業を行うなど、貴重な郷土文化の保存と市民がそれらに触れ親しむ機会の創出に努めていきます。

- 中央図書館で収集している資料について、来館者アンケートでは、「役立っている」が約50%、「少し役立っている」が約40%となっており、「役立っている」の割合が更に増えるよう、歴史的資料の収集と情報発信に一層取り組みます。
- 博物館では、昨年度に比べ来館者数が増加し、より多くの市民や観光客に地域の歴史を伝えることができましたが、更に来館者が増えるよう、展示の工夫や魅力的な講座・イベントの企画に取り組みます。

＜5－1－2 郷土愛を育むための取組の推進＞

- 社会教育課では、ジオパーク構想推進事業で地域の自然や文化の魅力を発信できるよう、知識を有する地域住民や関係者と連携し取組を進めていきます。また、SNSのより積極的な活用などにより情報発信の充実に努めます。
- 文化振興課が所管する井上靖記念館で中高生を対象に実施しているエッセーコンクールについて、令和5年度の応募数は261作品で、令和4年度の297作品から減少しています。募集テーマによる影響もありますが、対象者に情報が行き渡るようSNSで周知を行うなどコンクールの認知度が高まるよう取り組みます。
- 公民館では、郷土の文化に接する講座や地域の魅力を再確認できる講座など、アンケート等でニーズの把握に努めながら、地域の特性を生かした事業の実施に努めます。
- 博物館では、地域の魅力を伝えることができるよう、令和6年度は「川のまち」と呼ばれる旭川で川とともに暮らしてきた人々の歩みや、人々の生活とヒグマとの関わりをテーマにした企画展、地域の文化や歴史を題材とした講座の開催などに取り組みます。

第3章 学識経験者の意見

1 意見提出者

地教行法の規定による「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」として、本報告書について、次の2人の方から御意見を頂きました。

(北海道教育大学旭川校教授)

佐々木 直人 (北海道大学大学院教育推進機構講師)

2 本報告書に関する御意見

頂いた御意見について、教育委員会の考え方と併せて次のとおり掲載します。

(1) 教授からの御意見

～省略～

(2) 佐々木講師からの御意見

「第2章 計画に基づいた点検・評価」について

御意見	教育委員会の考え方
・「活動指標」と「成果指標」が分けて表記されており、取組と方向性が可視化されている点は非常に素晴らしいと思います。ただ、目標の設定や評価の手法、目標を達成するための手段に工夫が必要と感じる部分があります。長期計画に基づく指標を変えることはできないかもしれませんが、アンケートの内容を検討する余地はあるように感じます。社会教育事業は、どうしても「参加者の満足度」を重視しがちですが、行政としての公益性を担保するためには、参加者（関心の高い層）以外の声を拾う工夫が不可欠だと思います。その点で、市政モニターの結果を参照するようにしたことは大きな前進だと感じますので、引き続き幅広い市民の声を拾うための工夫を期待します。	・各課、各施設で実施しているアンケートの方法や項目を工夫し、幅広く市民の声を社会教育行政に生かせるよう取り組んでまいります。
・民間のイベントと異なり、教育行政として税金を活用して事業を展開する以上、“個人の要望”と“社会の要請”のバランスをどう取るかが重要だと感じます。全般をとおして参加者アンケートの結果が重用されている印象を受けますが、市民に対し、参加者がどのくらいのパーセントなのか、また、市政モニターや市民アンケートの結果を含めながらクロス集計するなど、旭川市全体を把握することで、実態に即した、より実効性のある評価ができるように感じます。	・個別の学習ニーズに応えるだけでなく、多様化、複雑化する現代的、社会的な課題を解決する学びの機会を提供するため、市政モニターや市民アンケートを有効に活用しながら、評価を行ってまいります。
・成果目標1には、「市民が課題を解決できる」ことを目指し、「情報提供を行う」と「学びのニーズに応える」とありますので、今後も対象に適した情報提供の手段と、多様な世代に対するニーズ把握に努めることが重要と考えます。	・広報誌やホームページ、マスメディアはもとより、SNS等も活用しながら、ライフステージや対象に応じた情報発信に努めるとともに、各種アンケートや関係者と意見交換を行うなど、多様なニーズの把握や学習機会の充実に努めます。

・情報提供が為されたかについては、活動指標 8, 11, 12, 16, 17 が該当しますが、いずれも低い傾向が見られます。昨今は SNS による発信が主流になっていますが、それは限定的な周知に留まる可能性もありますので、各手段のメリットとデメリットを見極め、今後も多様な機会・手段を模索する必要があると考えます。	・これまでも、広報誌やチラシなどの紙媒体や、ホームページ、SNS などのソーシャルメディアを活用し、イベントや講座、生涯学習、家庭教育など学びに関する情報提供を行っていますが、それぞれの特性や効果を見極めながら、より効果的に情報を発信できるよう工夫してまいります。
・ニーズ把握については、活動指標 13, 15 が該当しますが、こちらも低い傾向が見られます。市民の全てのニーズを網羅することは不可能ですが、社会教育として個人の要望に添えていくことは求められます。「旭川市民アンケート調査」「市政モニター制度」の活用を続けるとともに、事業後アンケートの項目の見直しや、団体への聞き取り等を行うことが重要と考えます。	・引き続き市民アンケートや市政モニターを活用するとともに、事業参加者や利用者へ行うアンケート項目の工夫や関係団体からの聞き取りなどを通じ、より一層市民の学習ニーズの把握に努め、事業に反映していくよう取り組んでまいります。
・「課題と改善に向けた今後の方向性」の中で、“社会の要請”に関する記述も見られます。こうしたことを事業化していくのは難しいことですが、市民に気づきを促すことも社会教育行政の重要な役割ですので、各事業において情報提供の時間を設定する等を積み重ね、市民が「学ぶ必要がある」と感じる機運を醸成していくことを地道に続けることにより、旭川市の社会的な課題解決につながることを期待できます。	・実施する事業について、個人のニーズに応えるだけでなく、現代的、社会的な要請課題等の情報提供を行うことにより、市民が当事者として主体的に課題の解決に取り組むよう機運の醸成に努めてまいります。
・基本目標 1 の最もわかりやすいデータが活動指標 1 の受講者数だと思いますが、目標値に対する達成率を見ると、令和 4 年度と比べ復調傾向ではあるものの、社会教育課が 29.04%、公民館事業課が 43.24%、中央図書館が 39.76% となっています（科学館は 112.46%）。オンラインが一般化した今、これらの数値が従前の水準に戻るにはまだまだ時間がかかることは想像に難くありませんが、だからといっていわゆる「対面型」が不必要ということではないと思います。今後は、事業趣旨や内容、参加対象等にあわせ、単純に対面型・オンライン型とするだけでなく、例えばオンラインで事前学習を行い、それをもとに対面型で深めるというような部分的活用を含め、行政サイドが新たな実施形式を積極的に試し、工夫しながら取り入れていくことが必要になってくると考えます。	・これまでも対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式の講演会や YouTube による動画配信を実施してきましたが、今後は対面とオンラインを効果的に活用した学習機会の提供など、学習効果が高まるよう、工夫して取り組んでまいります。
・活動指標 2 及び 3 を見ると、事業に参加した方の満足度はおおむね高い傾向にありますので、事業企画や施設運営の方向性は適切だったと言えると思います。一方、活動指標 13 以降の市政モ	・より多くの市民が主体的に学び、様々な課題を解決できるよう、社会的課題やライフステージに対応した学習機会や生涯学習に関する情報提供を行うとともに、幅広い市民に伝

ニターから見える数値とは乖離があるように感じます。いわゆるリピーターからの評価が高い点は評価できますので、今後は新規開拓の方法に工夫の余地があるように感じます。	わるよう努めてまいります。
【１－１－１ 現代的な課題や多様なニーズに対応した学習の推進】 ・国際理解、環境問題、ICT と、多様なジャンルの事業を展開している点は評価できます。ただ、「スマートフォンの使い方講座」について、今の時代に求められるのは「どのように活用できるのか」ということになっていますので、内容を計画的に発展させる必要があります。同時に、デジタルデバイドの解消についても継続的に状況の把握に努める必要があると感じます。	・世代や地域、経済状態に関わりなく、誰もがデジタルリテラシーを身に付けることができるよう、学習機会の提供を続けていきます。
【１－１－２ ライフステージに応じた学習機会の充実】 ・各取組における参加者の声からも、地域住民の活用や様々な工夫が功を奏していることがうかがえ、評価できると感じます。今後は、高齢者や子どもを対象とした事業の検討に加え、成人、特に現役世代に向けた学習機会をどのように充実させていくのかといった工夫が求められると思います。	・今後も「幼児、青少年期」「成人期」「高齢期」の各ライフステージに応じた事業を進めるとともに、現役世代を対象とした学習機会の提供を工夫してまいります。
【１－１－３ 学習機会の選択を支援する情報提供の充実】 ・「まなびネットあさひかわ」のリニューアル等により、活動指標６が達成されている点は評価できます。情報の取得に関しては公民館が中心となっていて行っていますが、今後も学校に公民館情報を掲示するスペースを確保したり、社会教育施設や団体との連携により市民が足を運ぶ場所に掲示したりといった取組をとoshi、広く情報を発信していくことを期待します。	・市民が学びに関する情報を十分に得られるよう、今後も「まなびネットあさひかわ」の活用を推進するとともに、市民が求める情報が得やすい環境づくりに努め、広く情報を発信してまいります。
【１－２－１ 保護者の育ちを支援する学習機会の充実】 ・保護者を対象とした事業は今後も行う必要があると思いますが、事業に参加するのが難しい家庭も多くあると思います。アーカイブ動画の作成や、ケーブルテレビと連携し、家にいながら学べるようなコンテンツの充実も検討いただきたいと思います。	・これまでも、対面やオンラインとのハイブリッド形式での講演会を行っていますが、外出が難しい保護者が在宅でも学べるよう工夫してまいります。
【１－２－２ 保護者を孤立させない支援体制の充実】 ・旭川市の“学びカフェ”や“家庭教育ナビゲーター”，保護者のネットワークづくり，子育てサ	・関係部局とより連携し，子育て世代のサークルの情報を把握するとともに，研修会等の事業を周知するなど，家庭教育に携わる方々の学習や情報交流のための環境づくりを図っ

ロンといった取組は、非常に評価できるものと思います。旭川市には子育て世代の様々なサークルや団体がありますので、そうした団体の把握と連携を強めることが、「課題と改善に向けた今後の方向性」の中でも触れられている活動指標 12 の向上につながることを期待できると思います。一つの案として、サークル・団体の代表者を対象とした研修会・勉強会を実施してみてもいかがでしょうか。	てまいります。
【2-1-1 社会の変化や市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備】 ・「課題と改善に向けた今後の方向性」に記載のある通り、利用者アンケートと市政モニターの回答に差がありますが、これは民間施設がある程度存在する都市部に共通する傾向と言えますので、重視すべきは利用者アンケートの方だと思います。過去指摘のあった施設の Wi-Fi 環境整備にも取り組まれ、計画的に改修を行っていることは、利用者アンケートにも高評価となって反映されており、評価できます。しかし、市政モニターの回答結果も一つの指標ですので、幅広いニーズをどのように把握していくかの工夫が求められてくると思います。	・これからも利用者の意見を施設運営に生かしていくとともに、幅広いニーズを把握する手法を工夫しながら、社会の変化や新たなニーズに応じた学習環境や活動環境の整備に努めてまいります。
【2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習機会の提供】 ・「あさひかわオープンカレッジ」や高等専門学校等、様々な関係機関と連携した事業展開は、旭川市の特性を生かした素晴らしい取組だと感じます。希望者が参加しやすい時間の設定、オンラインの活用等、リカレント、リスキリングの場として拡充されることを期待します。	・より参加しやすい時間帯での開催やスキルアップにつながる学習機会の提供など、様々な関係機関との連携を深めながら、内容の充実に努めてまいります。
【3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備】 ・社会教育による「学び」は、持続的な地域コミュニティの基盤形成に深く関与すると思います。その意味で、還元を明記し、意図的に場を設定していることは評価できます。また、「課題と改善に向けた今後の方向性」に記載のある、生涯学習フェアの実行委員会化は、人材発掘や人材育成の面で非常に有効だと感じます。今後も市民が活躍できる場づくりを期待します。	・生涯学習団体が主体的に事業実施に関われるよう取り組んでいる事業では、参画団体の意識も変化しているように感じています。また、ボランティアやNPO法人による活動も重要な取組となっています。引き続き、人材育成や発掘に取り組むとともに、その成果を地域に還元できるよう取り組んでまいります。
【3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援】 ・この項目において、「補助金による支援」が大きく記載されているところが気になります。補助	社会教育・文化芸術事業補助金については、申請の総額が、予算を超える場合は、過去の交付回数などにより、採択の有無や交付金額を決定しています。

金はあくまでも「補助」のためのものであり、その活動や団体が自立することを目指したものであるべきです。無制限・無期限に補助金を申請できるシステムは改めるべきと言わざるを得ません。記載がないだけで実施しているかもしれませんが、補助金を活用してどんなことに取り組み、どのような計画で推進していくのかを明確にさせる必要があります。補助金を受ける際に公開プレゼンを行う機会や、成果発表会のような場が、団体や人材の育成につながることを期待できますので、ぜひ検討いただきたいと思います。	また、文化芸術活動を行う団体支援の補助金については、新規交付団体数を活動指標に設定しているように、文化芸術活動の裾野を広げるため、様々な団体が活用できるよう制度の一層の周知に努める必要があります。 いただいた御意見も参考にしながら、今後はより効果的な補助制度となるよう取り組んでまいります。
・この項目についての分析が他と比べて弱いように感じます。団体や人材育成は、地域コミュニティの活性化には重要な視点ですので、記載のある「ジオパーク構想推進事業」、「20歳を祝うつどい」以外のソースやエビデンスを集める必要があると感じます。	・団体や人材の育成については、学んだことを地域の担い手として還元する取組も重要であり、より多くの市民が事業に関わる機会やその成果を還元できるよう工夫するなど、団体の育成支援に向けた取組の充実を図ってまいります。
【3-2-1 学校、家庭、地域の連携・協働によるつながり、学び合える環境の整備】 ・地域学校協働活動におけるモデル地域の成果と課題を他の地域にどのように広げていくかが重要であり、そのためには地域コーディネーターの存在が大きなカギを握ることになると感じます。どのように配置（所属・予算等）し、育成していくのかの方針を定めた上で、旭川市版の「地域コーディネーターマニュアル」を作成することが、持続可能な体制整備につながることを期待できますので、ぜひご検討ください。	・令和5年度については、北海道地学協働アドバイザーを講師として、地域コーディネーターについて理解を深める研修を行いました。今後については、コーディネーター研修を行うとともに、体制整備の充実に努めてまいります。
【4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実】 ・旭川市は、古くから今に至るまで文化芸術が盛んであることは、社会教育としての取組や施設管理が充実している故だということが、取組の状況からもわかります。「課題と改善に向けた今後の方向性」に記載のあるアウトリーチ型の取組や、幅広い世代の文化活動、特に創作活動を披露する場の設定は非常に有効と考えますので、作品の管理という点で実現は難しいかもしれませんが、文化会館や公民館といった社会教育施設だけでなく、買物公園など、たくさんの市民が集う場所での開催及び実施ができれば、喜ぶ市民は多いと感じます。また、これも実現性は低いかもしれませんが、市内各学校の美術の授業と連携し、美術作品を校内に展示し、学芸員が解説するというような体験型の美術の授業を行うといった取組も、若い世代が芸術に親しむ機会となるのではないのでしょうか。	・「旭川未来会議2023」での市民からの提言を受け、市民との協働により市内中心部の屋外・通りで「市民芸術マルシェ」を開催することを目指しています。 また、施設内だけでなく、アウトリーチ型の活動にも取り組むことで、普段施設を利用しない方にも音楽芸術に親しむ機会を創出します。 今後も文化芸術活動に親しむ機会の充実に努めてまいります。

【４－１－２ 文化芸術活動への支援】 ・補助金だけでなく「ACAG」というような機会提供を行っていることも、文化芸術活動への支援という点において非常に評価できることだと感じます。若手の作家が旭川市に根付くことは、文化振興の面では大きな力となるので、継続して実施することを期待します。	・次代を担う子どもたちや若い世代の文化芸術活動への興味や関心を高めることは、継続的な文化振興にとって重要です。今後も若手の作家の文化芸術活動を支援してまいります。
【５－１－１ 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用】 ・この項目に関する活動指標・成果指標の多くが高い数値を示しているのは非常に高く評価できます。保全には多くの費用と処置が必要ですが、外部資金の活用を視野に入れながら、貴重な資源を後世に伝えるための取組を期待します。	・アイヌ文化を紹介する事業やアイヌ関係資料の保存に国の交付金を活用しており、引き続きこうした資金も活用しながら歴史的資料を適切に保存・活用していきます。 また、国指定の文化財等の保全や整備に関する補助制度に比べると、地方自治体が指定する地域に根ざした文化財等を対象とした制度は極端に少ないのが現状ですが、情報収集に努めながら、外部資金の活用も模索しながら、地域資源である貴重な文化財や地域特有の資料を適正な状態で後世へ継承する取組を進めてまいります。
【５－１－２ 郷土愛を育むための取組の推進】 ・この項目に関しては、何よりも学校教育との連携が必要だと感じます。学校からの依頼もあると記載がありますが、今後も積極的に多くの学校での出前授業を実施することが望まれます。	・アイヌ文化の保存伝承を行う団体が各学校に直接出向きアイヌ舞踊等を紹介したり、市内民間施設と連携し、児童の見学受入れや体験学習を実施しているほか、移動手段の確保により児童生徒の来館を促しています。 また、小中学校の教員、北海道教育大学の教員や学生等とともに彫刻巡回展示の作品を利用した授業を行っています。 今後も学校や民間施設、関係機関とも連携しながら、郷土の歴史に親しむ機会の充実に努めてまいります。